

5/22(日) 10:00~14:03 緑台小学校 参加者 203名 発言者 のべ29名
O…ご質問、ご意見 →…川西市教育委員会の説明

<事務局>

→それでははじめに川西市教育委員会より、川西市教育長牛尾巧からご挨拶を申し上げます。

→みなさん、おはようございます。川西市の教育長の牛尾といいます。本日、第3回目、平成27年10月、それから28年の1月と2回ありました。本日は第3回目になります。この学校の統廃合について、本当に大きな課題が出ております。本日第3回目です。今から部長のほうから説明をさせていただきます。本日いろんな形で、皆様方から忌憚のないご意見いただいて進めていきたいと思っています。よろしく願いいたします。

→ここで本日出席しております、教育委員会事務局の紹介

→本日はお手元の資料を元に説明いたします。説明の後、皆様方のご意見いただきたいと考えております。それでは部長お願いします。

→皆様改めまして、よろしく願いいたします。教育推進部長の木下でございます。早速ですけれども、多田グリーンハイツ地区における小学校統合について、少しお話させていただきたいと思います。まず最初にですけれども、みなさんもお存じのとおり、日本の人口そのものがすごく減っていつている。今現在1億2700万人の人口が、30年後くらいにはすでに1億人を切って、9000万人台に減っていくという、そういう世の中全体の流れがございます。これについては、少子高齢化という中で、人口減少に歯止めがかからないという状況がございます。合わせて、いろいろな推計によると、一極集中化という、都会のほうに人口が集中する、そういう流れがあります。そういった流れにつきましては、少しでも、川西市だけではなく、各自治体でなんとか人口の流出を防ぎたいということで、いろいろな取り組みが進んでいるという状況です。そういった中で、特に0歳児から14歳児、いわゆる若年期にあたる子どもたちの人口ですけれども、今現在、約1500万人といわれていますけれども、これが30年後にはそのうちの3分の1が減ってしまう、つまり1000万人以下になってしまうという、そういう流れになっています。川西市におきましても、今人口が約16万人ということですが、細かい数字を見ますとすこし16万人切ってしまったと、そういう状況の中で、さらに人口が減っていくという、そういう推計があります。具体的ところで、今現在いわゆる児童数についても、川西市全体でこの5年間くらいで、約今後1000人くらい減っていつてしまうという、そういう状況が全体としてあります。これはすでに皆さんご理解いただいているとは思いますが、日本全体の人口も減るし、子どもも減っていつているというそういう流れが今あるということがございます。その中で、資料の1ページになります。今、統合を進める背景とその流れということで、ご説明させていただきましたけれども、川西市においても人口が徐々に減っています。そういった中で、校区審議会の方で、6月、緑台小学校と陽明小学校については、平成30年度を目途に統合を進め

ていくことが一つの指針として示されたと。で、その下に、現在のですけれども、緑台小学校と陽明小学校の現在の児童数とクラス数を書かせていただいていますけれども、2ページに、今後どのように児童が推移していくかということで示させていただいております。ここ、多田グリーンハイツ地区においても、人口また児童の数が減っていく、そういう傾向にあるということは否めないんじゃないかなということ、一つの方向性として示させていただいております。そういった中で、大きく分けると二つの方法があるかと思えます。一つは、小さい学校を存続していくという方法です。こういった方法が一つ。もう一つは、ある程度の一定規模の学校をそのまま続けていく、つまりどういうことかという、統合をすることによってある一定の規模を保つ。それぞれメリット、デメリットというものは考えられて、決して、少人数、小規模校がよくないということも100%いえるわけではないです。一方では、ある程度の規模を確定することが100%良いということも言うことはできない。結論はありません。結論というか、100-0でどちらがいい悪いと、そういうことはありません。小規模校ですと、やはりきめ細かな指導ができていこう、あるいは、アットホームな雰囲気、いろんな人と知り合って関わりが強くなっていく、そういった中で子どもたちが育っていく、これはもちろん素晴らしいことだと認識しています。一方で、ある程度の人数が確保されているということはどういうことかという、たくさん子どもたちと知り合ったり、たくさん子どもたちと交わっていくことができる。良いことばかりではなく、ひょっとしたら友達と喧嘩をしたり争いをしたり、そういったことをしながら、していく。でもそういった、人との関わりっていうのが非常に大事じゃないかという考え方もあります。そういった中で、教育委員会としては、後者の方を選択しようとしています。というのは、いわゆる、ある一定規模の学校規模を作っていく、それを維持していくことが、子どもたちの成長にとってとても大切だと考えています。先ほども言いましたけれども、100-0ではありません。いわゆる、7-3、ひょっとしたら6-4なのかもしれませんけれども、それぞれの良い面と悪い面がありながら、どちらかを選択しなければいけないという立場において、やはり学校に求められるものとして、社会に出て、その子どもたちがしっかりと活躍していくということにおいては、ある程度的人数の中で個体が変わっていく、そういった瞬間を作っていくことが必要じゃないかという観点にたって統合を進めてまいりました。仮に単学級ができたときに、その子どもたちが6年間同じ仲間ですとずっと過ごしていくということは、うまくいったときには非常にいい関係かもしれませんが、そうじゃない時に、なかなかメンバーを変えることができないといった点でいじめもあるんじゃないかということであったり、あるいは、その人間関係が固定化してしまう。そういったことも考えられますので、教育委員会としてはある程度の規模を維持したいと、そういうことで統合と考えています。

資料の3ページになります。

<来場の方>

○そこまでで質問があります。

→すみません、後で一括してお聞きしたいと思います。

<来場の方>

○覚えられへんのですよ、一個一個のことを。今までの考えの中で、どう感じているのかをお伝えしたいんですけど、進められてしまうと、時間がない。

→先にご説明差し上げたうえで、そのあとご意見ご質問お伺いしたいと思いますので、もうしばらくお待ちください。できるだけ手短かに説明させていただきます。

(説明もいらんやろ・同じことしか言ってないやん・説明いらんから質問させて・説明じゃないんです・決定したことばかり押し付けてきて・一部の反対でなんやねん、保護者をバカにしてんのか・子どもの声ですよ。単学級の子はみんなグレとんのかい 他)

→そういうことではありません。

(限られた時間やったらもう質問でええんちゃいますか・4行で終わっというて議事録ってなんやねん、異議なしってどういうことや)

→ちょっとよろしいですか、

(だから陽明も緑小も残したらええねん、どっちの子どもも犠牲にすんなお前ら)

→そういうご意見も伺っておりますし、

(ご意見ちゃうわ話しとるけど毎回)

→部長からしますのは、第3回の説明会に

(100回でも200回でもやるんかいな、説明会なんかいらんねん、決定かどうか話せえ・何回説明すんねん・1回目と2回目の以外のことを言ってください、新たに決めてきたことを 他)

→ご意見十分わかるんですけども、今回初めてご出席の方もおられるので、

(すみません、私初めて来ましたが、ご説明していただかなくてもわかりますので、進めてください。・議会はいる前に決定決定って教育委員会を言っ、何してんねん・説明いらんから聞けや・お前らここ住んでないやろが・マイクをお願いします 他)

→とりあえず、説明をしますので、

(司会者、お前とりあえずって言葉やめろや、お前ここの住民ちやうやろ、お前の子どもここに通ってんのか・お前とこの教育委員会のやつは嫌です言いよったぞ、自分の子どもやったら嫌ですって言うとるねん、小学校1年生がどうやって4キロ近く歩くねんお前ランドセルしょって、違うか牛尾さん、嘘ばっかり並べて、牛尾さんあんた歩いたん？どれくらいかかったん？365日毎朝毎晩歩けや)

→進行いたしますので。本当に手短かに説明させていただきます。もう少しだけお待ちください。資料の3ページです。ここは統合した時の学校規模を書いています。その下です。統合に関連して取り組む事業ということで、統合した時に留守家庭育成クラブのこともあります。そのことも含めて精査していくということ。それから跡地利用についても書いています。それと、特にいろんな方からありました、4ページ5ページのところに統合についての課題を書かせていただいております。その中で、特に一番大きな問題、今ご意見もありましたけれども、通学距離の問題、これが一番子どもたちにとって大きな問題だという風に認識しています。これは通学距離の問題と合わせて、通学上の安全という、そういう2つの面で、このことが統合についての課題だと思っています。そういった中で、まだ、決定ではありませんけれども、通学のことにつきましては、子どもたちへの支援を考えています。具体的には、ここはちょっとよく聞いて頂きたいんですけども、教育委員会としてこういう方向を考えているということで、それイコール決定していると取られたら困るんですけども、教育委員会としてはこういう方向で進めるんだということについては、1つはバス通学を認めるという、そういうことにおいて、また、

(保護者負担なんか、無料?)

→バスについても考えていく。併せまして、安全確保につきましては、ひとつはカーブミラーの設置とかそういうことも発達させていくということもありますけれども、やはり一番大切なことは地域として子どもたちを見守っていくという、例えば、中学生が小学生と一緒に連れて行くだとか、そういったこと考えていけるのではないかと考えています。それと、

(時間が違うでしょ・もういい・下校時間はどないすんねん・一緒やいうねん話してもそんなもん他)

→もうひとつは、今現在、教育委員会が考えていることは、多田グリーンハイツ地区において人口の流入があります。そういうことを今考慮しています。といいますのは、多田グリーンハイツ地区では、全体の人口は減っていきます。毎年出る住民基本台帳、これを見ますと、人口はマイナスになっています。ただし、いわゆる子育て世代ですね、いわゆる0歳児から、ちょっと聞いてください。

(時間を稼いで、こちらの質問をしないようにしているのでは 他)

→そうではないです、あと5分、30分からそちらのご意見聞いていきます、あと5分だけ聞いてください。で、その中で、多田グリーンハイツ地区については先ほど言いましたように人口全体は減っているのですが、子育て世代、小学生に入ってくる子あるいは未就学児の子どもたちが入ってきているという現実がございます。毎年数人入ってくるという状況の中で、今まで単学級が出るだろうと予想されていた時期が、後ろの方にずれていくという、そういうことが今分かってまいりました。そのことについては、さらに今後も、子育て世代の流入についてはしっかり見守っていく必要があるということと、それから、5月16日ですけれども、建設文教公企常任委員会において、本日この場でいわゆる、統合を決定するというのを、議会の中でもお伝えしましたが、議員の方から地元との話し合いを十分に協議してほしいと、そういった要望も出されました。そういうところによって、教育委員会としましては、1つは子どもたちが入ってきている現実、これをもう一度きちっと精査していきたいということ、もう一点は、今日もたくさんの方来ていただいておりますけれども、地元との協議を十分に進めていくと、理解を得たうえで統合を進めていくと、そういうことで考えております。従いまして、本日は課題を一から精査し直して、再度お話ししたいと。もう少し、結論の部分についてはお時間をいただきたいと。そういうことで進めたいと思います。

(白紙になったということ？木下さん、木下さん。お前が答えろや、進めんな。白紙になったということかいうてんねん、今の説明は。なんで質問聞けへんねん。)

→あの、今この時点で言えることは、方針を見直すということ、皆さんにお伝えしているのではなくて、その方針そのものを考え直すので少し待って下さいということをお話をしています。

(意味が分からん、濁すなや)

→すみません、ちょっとマイクを通して、

(マイクいらんねん聞こえてるやろが、おっきい声でしゃべれや 他)

→後ろの方も質問したい方いますので。今からマイク持っていきます。少々お待ちください。

(何がマイクやねん、聞こえとる言うねん 他)

→いろんな方の意見伺いたいと思いますので。

(もっと分かりやすくやれやほんま意味わかれへんことばっかり言って、濁すなさっきから・こっち話させてやってください・はっきり言うてください・もう一回お願いします・元に戻す言うのがなんでゼロじゃないねん 他)

→あの、ちょっと申し訳ないんですけれども、十分意見とか聞いて、それでお答えしていきますので、後ろの方に聞こえないという声もありましたので、マイク回させていただきますので。挙手していただければ。それと小さいお子さんもいますので、やっぱり話し合いということで、その辺はちょっと、考えていただきたいなとお願いをしときたいなと思います。

先ほどの説明に付け加えさせていただきますけれども、1つは、子どもたちの数が推計で思っていたようなものと違うということで、それをもう一回きちっと見直していくということでございます。それともう一点は、いろいろな課題がありますので、それも再度きちっと整理するというので少し時間をいただきたいということです。ですので、今、白紙なのかというご質問出ましたけれども、白紙ではございません。現時点で言えることは、もう少しお時間くださいということです。

それでは、マイクを回していきますので、お手数ですがけれども、発言の前にお名前は結構ですので、現在在学中の保護者様か、未就学児の保護者様か、地域の方かについてのみお知らせいただくと幸いです。

<在籍 保護者>

○在校生小学校2年生の保護者です。私は、緑台小学校の廃校に反対いたします。理由は3点。1点目、今回の統廃合に関する審議会の答申、これは子どもたちや保護者が何を心配しているのか、基本的な部分、住民の意見がありません。自治体の事例、1つ挙げます。いろいろありますけれども。2004年に東京都の東久留米市で滝山小学校が統廃合されました。統廃合直後から高学年の学年崩壊、低学年に行き渋りが発生し子どもたちは大人や集団に対して不信感を持ち、中学進学後も荒れたり不登校などが顕在化したと言います。この際、複数の保護者から校長に対し、混乱は統廃合によるものではと問い合わせたのに対し、管理職サイドは統廃合は失敗であるという実態を最後まで認めませんでした。緑小校区でも全く同じことが再現される可能性が高いです。

2点目。廃校によって、現場職員の負担が増して、おそらく数年は混乱すると思います。さらに小中連携を推進することで、小学校はもちろん中学校教育もおろそかになる恐れが大きい。にも関わらず、こういったリスクの洗い出し、対応策が何ら議論されておられません。こちら事例があります。小中一貫教育を初めて推進した東京三鷹市。こちらで教職員を対象としたアンケートが実施されていました。2009年、7年前です。三鷹市の小中連携教育は子どもたちにとって意義があるかの問いに、218名の先生のうちですよ、171名、実に8割。この方たちは、8割の多くは否定的な回答をされています。さらに小中一貫教育の進め方はどうだったか。つまり行政のやり方はどうだったかということですね。こちら85%、かなり多くが否定的な回答をされています。聞いて頂けましたかね。大丈夫ですか。行政サイドの意思疎通にはより大きな問題が混在している。こういったアンケートに答えた先生方の代表的な意見。教職員が新しい体制にもものすごく不安。そのしわ寄せが子どもにいくというデメリットが発生する。そして、現場無視のトップダウン。何も

聞いてもらえない。そういったことがあったと。牛尾教育長、本来教育長とか事務局では、こういうやり口をきちんと把握をして、議会でちゃんと審議をさせる義務があると思います。

3点目。一番大事なことですけども。答申をまとめた校区審議会で、事務局の恣意的な誘導が疑われ、教育委員会の公正中立性に大きな問題が認められること。教育委員会の公正中立性から検証しましょう。第25回教育委員会で、昨年10月に緑小校区で行われた第1回の統廃合の住民説明会、結構多くの方が参加されていると思います。この統廃合の住民説明会の報告があって、それに対して教育委員の鈴木委員が発言されています。全文を公開します。「校区審議会の答申に遡りますが、答申の内容は公正で前向きなものであると私は受け取りました。説明会で上がった皆さんの懸念についても答申で既に言及されており、川西の子どもたちの、より健全な成長のためによく検討されたものと言えらると思いますので、答申第一に説明会でご理解を得ていただきたいものだと思っております。」以上です。

1点目ですね、問題ありと断じた答申、べた褒めされていますが、そこはちょっと置いておきますね。鈴木委員の発言をまとめますと、緑小をさっさと潰して、陽明小への統合を速やかに進めなさいという趣旨です。いいですか。ところでこの鈴木委員、教育委員に任命されたのは平成26年11月30日。ちなみに、校区審議会において統廃合に関する諮問、これも同じく平成26年11月です。ポイントはここです。このタイミングで新しく任命された鈴木委員、陽明小学校の評議員を務めておられるんですね。これは偶然ですかね。

(おかしいなあ・おかしいです 他)

○事務局の人選は、倫理的に不適切で、任命責任を免れないです。もう一つ。川西市教育委員会が統廃合問題に関して、公正中立でない、このように断定できます。なのでこの人選、もちろん偶然でないとい個人的に考えます。ここは事務局側の恣意的な誘導ということで、意味を明らかにしたいんですけど、その前に予備知識をひとつご紹介します。文部科学省のサイトに、教育委員会制度についてというページがございます。教育委員会制度の意義というのがあるんです。3つ掲げてありまして、その2つ目に、継続性・安定性の確保と、こんな文章があります。「教育は子どもの健全な成長発達のため、学習機関を通じて一貫した方針のもと安定的に行われることが必要。また、教育は結果が出るまで時間がかかり、その結果も把握しにくい特性から、学校運営の方針変更などの改革改善は漸進的なもの、これはつまり徐々に進めていくもの、学校運営の方針変更などの改革改善は漸進的なものであることが必要。」なかなかいいと思いますね。川西市の教育委員会、並びに事務局の方もこの制度の意味をご理解いただいていたら、私こんなセオリー書かずに済むという。ではですね、そもそもなんで、なんでここにいらっしゃる事務局の方は、文部科学省が示した意義を足蹴にしてまでですよ、本件を推し進めようとしているのか。真っ先に思ったのは、市にお金がない、つまりコストカットかなと思ったんです。ところがですね、事務局は、前回の第2回の説明会でも、このことは明確に否定しておられます。では、事務局側がこだわっている理由は何かと。単学級がよくない。平等でないという論理です。事務局が文科省のお達しを足蹴にしてまでですよ、推し進める理由としては甚だ疑問なんですよ。もっと別の理由があると思うんですね。それは何か。ちょっと私考えてみました。状況からの推測なんですけれども、事務局は緑小を廃校にすることで

ですね、本命は、文科省としては統廃合を推し進めたいわけですね。文科省に媚を売って、跡地利用の補助金を狙っているんじゃないかなと思うんですね。そのお金と、国へのアピールという実績を餌にしてですね、役所内で根回しを行っているんじゃないかと。こう考えます。(拍手)

根拠を言います。実はですね、文科省から平成27年1月27日付けで、統廃合関連の手引きが出されています。ここに、少子化に対応した活力ある学校づくりに活用可能な予算事業について事務連絡が載ってまして、見たい方後で見ただけであれば結構ですが、こんな文章があります。一部はしよりますけど、本件に関連する、本件というのは統廃合のことですね、本件に関連する取り組みを実施するにあたって、市町村教育委員会における活用できる予算事業についてまとめましたと。各都道府県教育委員会におかれては、市内の市町村教育委員会に周知いただくよう、こう書いてある。平たく言うと、統廃合を実施したら予算をつけてやると。こういう話です。

以上の動向を踏まえて私がみたストーリーはこんな感じです。鈴木委員任命の1か月ほど前、平成26年11月ごろですね。補助金の通知が近々出そうという情報を事務局が入手した。その時点で事務局は通知に合わせて統廃合を率先して進めることで、文科省にゴマをすって国の補助金を確保して、市の行政運営に目に見える形を残そうと、そうしてたんですよ。それは確かですね。それは確かじゃないかな。その際ですね、跡地候補として比較したときに、緑小に白羽の矢が立った。緑小に場所に誘致したい設備がすでにあっただけかもしれないですね。ただし、事務局が校区審を開き終えた平成26年11月の時点ではですね、まだ文科省からの通知が出ていなかった。出ていなかったんですよ。文科省へアピールするには、文科省の出した通知に従って廃校を決定したんだよと、そういう順番が大事なんですね。ただし、予算を獲得これ自体は早い者勝ちなんですね。通知が来たらできるだけ早くことを進めることは、文科省へのアピール、今の面からですね、確実に予算を押さえる、最優先事項なんですね。そこで、まずは教育委員会に鈴木氏を加えて、教育委員会の統廃合の後押し体制を整えた。緑小と陽明小どちらかを潰してもう一方に統合という状況から、陽明小の協議委員ですから、当然陽明小のほうに、緑小を移転するでしょう。でも、児童数は緑小の方が多くて、通学距離も緑小に統合した方が短くて済みますから、いくら事務局が答申で明確にしたとはいえ、いつ何時ひっくり返されるかわかりません。その不安と焦りが鈴木氏のコメントに表れているのではないですか。

一方、校区審議会では、名目上市民が進める格好を取りつつ、統廃合やむなしの合意形成をも図りながら、通知が確定するまで、時間稼ぎをした。平成27年2月9日、晴れて兵庫県教育委員会から通知を受け取った事務局は、次の審議となる3月11日に、満を持して緑小を潰す方針を決定します。そのタイミング間違っていないです。何度も確認しました。この際この跡地利用についてご老人が期待しそうなことを利用して、市民で反対に回りそうな人をうまく誘導したんじゃないですかね。実際に緑台・陽明地区コミュニティ協議会長、この方委員の一人なんですけれども、当該地域が平成27年6月に結審しているんですけれども、そのひと月後の7月にはですね、川西市公共施設等あり方検討委員会の市民代表委員として名を連ねていらっしゃいます。さらに、箱モノを設えるのは市議員や市長にとっては目に見える業績になるので、以前より増えるかもしれないですね。

つまり、統合するのが川西行政を担う、あなたたちにとってすごいプラスになる。反対する意味が乏しいことがうかがえるんですね。仮に、グリーンハイツに老人ホームを誘致して、緑台地区の

票を稼ごうとしている民間団体がいらっしゃる。なんで統廃合に反対するの？ってみなさん愚痴るかもわかりませんよ。ちょっと脱線しました。ごめんなさい。戻します。

事務局はですね、このころ審議会が終わって、形だけはそれっぽい答申を6月にまとめて、教育委員会に了承させる。あとは簡単です。緑小の人を減らして、緑小取り壊しやむなしの状況を作ればいいんです。外向けには、市のホームページで緑小が統廃合されますよと明記して、外部からの転入を防げばいいんです。内向きにはお隣どうぞと、第二回説明会の保護者意見にもありました、緑台小学校以外にも、陽明小学校・東谷・多田小学校に行ってもいいですよという手紙を緑小に配布して、内部からの児童の流出を図ったんです。

(ひどいです・決定前にどういうことや)

○で、緑小の勝手に人数を減らしたということになればですよ、行政側は誰からも責任追及される心配なくなるんですね。その上で補助金得て完結です。

まあ今のところはそういうふうには話は進んでいるということでもいいですよ。この通りにいくと本当にどうなるか。ほんとにどうなんですかね。いろんな意見あるんですが、私の意見はこうです。まず、緑小の子どもたち、ここにも何人か来てくれています。300以上の個性、ここに一生消えないトラウマが残ります。おそらく教育を考えている世帯が移住してこなくなります。当たり前です。うちも外からの2移住者ですが、こんな状態になっているところに誰が入りますか。で、道を広げるっていうのも。聞いてますかね。大丈夫ですか、ちゃんと聞いてくださいね。

今回の件でですね、コミュニティの代表者も立てられなくなってくると思いますよ、正直。お祭り等もたぶん開かれなくなるでしょう。ますます地域の、こころって離れていくんじゃないかと思うんですね。その結果、高齢化も加速して、治安も悪化して、コミュニティが速やかに衰退していく。私はいろんな事例ひも解いたことについては、私はですね、緑小潰してしまうこと反対しているのは本当にまずいです。本当にまずいですよ。いいですか。審議の中でですね、ある委員が「跡地ができればデイサービスでもいいので、幼稚園が横にあって、小さい子どもたちが来てくれる施設があれば」とか「子育て世代が仕事ができる場所がないだろうか」などと発言されているんですね。頭抱えましたよ私。まさに事務局の総意なのかもしれませんけどね。いいですか。ある地域に存在していた小学校がなくなるということは、そのコミュニティは小学生がいなくても構わないと、仕方がないと、その地域が宣言している。

(ここに小学生がいなくなっているんですか。)

○この、方針決める審議会の中で、こういった切実さが一切なくてですよ、本当にお花畑みたいな、夢・ビジョンを思い描いて、遊んでいるようです。非常に能天気な議論、これに時間を費やしているわけです。緑小を潰してですね、まあ5年もたってですね、跡地利用、まあ緑小が跡地になったとしましょう。平成30年に。そしたら平成35年にですね、跡地利用する人が一体何人ぐらい残ってますかね。この地域から小さな子どもがいなくなるんですよ。幼稚園なんか普通分かるじゃないですか。何の心配してるんですか。ねえ。少なくとも、私幼稚園児連れてこんなとこに引っ

越してきませんよ。うん。誤解の無いよう申し上げておきますけれど、私はですね、統廃合イコールみんなして反対なんてこと申し上げているわけではないです。先ほど木下部長がおっしゃってました、100-0で決まる話じゃないと。それは分かるんですよ。いいですか。実際に例えば神戸市なんか、反対の人がいた時、統廃合はここまで引き延ばす、抵抗力あるんです。ではなんで反対しているか。いくつかの事例をレビューして、私は一つの持論を生みました。統廃合に限らずなんですけれども、教育環境の変化をする場合ですね、事の正否を分けるポイント、環境変化を実施する側、これは事務局のあなた方です。いいですか。あなた方の、子どものことを思う熱意、いいですか、子どものことを思う熱意、そしてその熱意を、保護者に伝える姿勢、それがあがるかどうかです。それだけです。それがあれば、何とかなる。今回の件、残念ながらですね、事務局の審議会も教育委員会からも、緑小に通う、ここに来てくれている何人かの子どもたちを含めた、300を超える個性と向き合って、その幸せ・ハッピー、これを願う熱意が、保護者の私に、かけらも伝わってこないです。(拍手)

そこをお願いしたいんですが、まずですね、この案件を持ち込む前の状態に戻してみたらどうでしょうか。その上でですね、改めてもっと子どものことを考えた案を、改めて持ってきてください。なんぼでも聞きますよ。あるいは先に紹介した、教育委員会制度の意義、あれを守ってください。いいですか。これに沿った形で進めていただけたらもうちょっと素直に耳傾けられると思うんですよ。ねえ。事務局側に確認したいので、次の三つ、牛尾教育長、要求します。

(他の来場者：すいません。ちょっと長いので、いろんな方が質問したいと思うので、もうちょっと短くまとめてもらえますかね。長すぎます。)

○すいません、ごめんなさい。この3つで終わります。一つ目、更新日平成28年5月22日の、市のホームページの「市立小学校の統合について」という市のホームページ、これを明日、5月23日までに改正すること。最初の3行「本市では」から「運営します」までを、文章自体は存在しているのが分かるように、また検索に引っかかるように、取消線で削除した形で残すこと。

二つ、本件が白紙撤回であることを関連の小学校4校に通達し、各担任を通じて生徒に説明を行わせ安心させること。合わせて、川西市内すべての保育園幼稚園に同時に通達し、園児のすべての保護者に対して周知徹底を図ること。通達期限は平成28年5月31日まで。

三つ、本件に関して修正されていた事案、予算配分等、今から練りなおして、緑台小や清和台小の学校運営、教職員の活動、児童の保護者に不利益がないように。

以上です。この場で一度お返事いただけますか。以上です。すみません、長くなりました。

→すみません、ありがとうございます。あの、具体的事例でよく詳しく調べて頂いたということで、私たちも十分参考にさせていただきます。それと、最初の説明が長すぎて、皆さんちょっとイライラしているかも知れませんが、今日のお伝えしたい事項の一番大事なことは、今まで、第2回目の説明会では、今日で打ち切りとお話させていただいていたかと思うんです。今日変更せずにこの会をしたのは、引き続き皆さんと話し合うというか、そういう予定で、統合の件を考えていきたいということで、しばらく時間を頂きたいということです。

で、ここがすごく曖昧で、もっとはっきり言えということだと思いますが、公の立場でしゃべるにあたっては、先ほど説明の中であった、審議会の了解であるとか、市議会のほうの説明であるとか、いろいろステップを踏まなければなりません。従いまして、ここで白紙撤回言えといわれても、申し訳ないのですが、言えません。ただ、お時間を取って、確かにこちらの方に、子どもさんが増えている事実、これをきちっと公にしたいと考えています。

最初に、子どもさんが減るといように審議会で出したのは、平成26年度の推計でもって話を進めました。これがこの時点では妥当であったと今でも思います。私は、その後に異動してきたものですが、その後に人口の動きであるとか、皆さんがおっしゃっていた転入による増員、そのあたりのことを調べるにあたって、こちらにいる事務局側も慎重な姿勢、それから皆さんに対する熱意、先ほどおっしゃっていただきましたけど、やっぱり考えていかなければならないのではないかと考えています。これは絶対に本当にやります。なので、結論はここで言えません。ということは、今の段階では現行案が生きているのですが、実際われわれが統合に向けて、推計上の数値と今が変わってきている。これは事実です。ということは、それなりの判断をどこかでしなければいけません。順序立てて言いますと、もう一度そういう手続きを踏んで行って、最終的に皆さんに言える、それがいつやねんという、できるだけ急いでやります。今日はそういう時間を下さいということで、お伺いしました。いろんな不満とか、要望があればまた追加でお伺いします。検討するところは検討しますし、予算が必要なところは予算取りををします。だけど、以前とは少し違うんだということだけ理解していただければと思います。

<保護者>

○僕3回とも来ているんですけど。待ってくださいと言っているあなた方の立場があるのはわかります。断定したことは言えません、待ってくださいと言っているけど、おしりは30年と決まっているわけじゃないですよ。待つ待つ待つ、いろんな事を言われるかも知れないですけど、じゃあ30年から始めますと、それやったら待ってる意味がないんです。あんたらの時間稼ぎになるだけなんです。たぶんあんたらの上が言ったから、立場があります。今断定できないというのも理解できます。ただ、待ってくださいと言うことは、30年に統合しますというところも、ずらしてくれへんことには時間は絶対足りないです。(拍手)

要するに、「僕たちは変わったんですよ。ここで止めるつもりでいたけれど、止めるつもりではないんです。皆さんとお話ししたいです」ということが本心であるということですよ。そのイエス・ノーくらいであれば答えられますよね。僕の話が終わった後でいいです。それであるのであれば、もうちょっとみんなの時間を取って、もっといろんな人、先ほど言っていたように、100-0は無理です、いろんな人がいます。だけど、この資料見ても、一方的なんですよ。例えば、僕1回目から出てますけどお年寄りの方も出てきてるんですよ。はっきり言ってお孫さん関係ないですよ。それやけど、ここの子どもたちが好きやから言うて来てくれているんですよ。こんなやり方されて、お年寄りの人が距離が長くなって見守り隊に出してくれますか。あんたらそんな、わーっとやって、出るとは思われへん。なんで私やらなあかんねんと。反対してたのに、というふうになると思うんですよ。それを、みんな見守り隊増員、誰がしてくれんねん、はっきり言って。僕たち

子どものためを考えているんです。そもそも30年ておしりを決めてること自体おかしいんですよ。どっかで区切らなあかんのは分かります。でも、30年までにて言うたら、子どもの心のケアが何だていうのであれば、今1年生の子は最低限でも卒業させたらうや、今の学校でね。緑台がなくなるにしても、緑台小学校で入学した子は、緑台小学校で卒業させてあげる。これが心のケアちゃいますか。であれば6年後です、最低限でも6年後。ね。だから全然心がこもってないんですよ。僕たち親は、あなた方に預けてる部分があるんですよ。だから子どものためにやってくれてるんやったらみんなの心を打つんです。でもあなた方の出してくる資料は全部決めてから、後付け、後付け、後付けなんですよ。先ほども言いました、陽明小学校と緑台の人数、緑台小学校の方が人数多いんです。であれば、陽明なくしますよね。資料、こっち陽明小学校じゃないです、緑台小学校です。緑台小学校の人を説得しようと思ったら、緑台小学校の方が人数少ないんです、だからこっちなんですということであれば納得できます。みんな納得できるわけじゃないです。陽明の方が少ないです、ほな向こうを潰せや。だけどみんな陽明潰してほしいわけちゃうんです。緑小潰してほしいわけじゃないんです。もう統合で始めてるあなた方に怒ってるんです。仮にどちらをなくしたって、やっぱり今から流入する人のことを考えて、やっぱり子どものことを、ここで育った子帰ってきてほしいと、いいこと書いてますやん。帰ってきてほしいんやったら、やっぱり子どもここで育てようと思うんやったら、小学校がなかったら。どちらの小学校をじゃないです。小学校がないところに、若い人が来るとは思われな。もともとここの地域をつくる時は、2校でここはやりますと。だからもともとの区画が、小学校大きいのあるわけです。清和台とは違うんです。そういうことを考えたら基本に戻って、ここに子どもたちが帰ってくるようにするためにどうしたらいいか、そういうことを考えていくのが、教育委員会、あなた方なんちゃいます？子どもたちのためにやってもらわないと。それなのに6年も待たずにやるなんて。心のケアがどうや、言うたってこっちに響かへんのですわ。だから今から考え直しますと言うてるんやから、一番に子どものことを思って。僕らも社会人です、色々立場があるのは分かります。けどやっぱりあなた方にとっては子どもが一番です。そこを考えてね、最低でも6年後になるはずですよ。今ここで断言できないのは分かっています。そういうつもりでやっていただきたい。だからまず、白紙撤回が難しいとしても、とりあえず30年は越してください。あと、あなた方が市の人間ということであれば、小学校なくすことというのはそんな簡単なことなんですかね。本来であれば、選挙になるんちゃいます？そういう話題が出てないですけど。だからそれこそ市議会議員の方もここになんかを造るだのなんだの勝手なこと言えるんです。勝手なこと言ったら次の選挙では票が入れへんと思ったらそんなこと口にも出さないですよ、実際ね。だからやっぱりまず30年というのがまずおかしい。実際ね。今、あなた方が、これで終わろうとしてるんじゃないんです、皆さんと話をしましょうというのが本音であるのであれば、今すぐ返事できないのは分かっています。けど、そういうふうな回答がちょっとずつ出てくる、そういうふうな形が、それは約束して下さい。それくらい約束できるはずですよ。いま白紙撤回するとか、そういう断定的なことあなた方が言えないのは分かっています。そんなとこまで要求しません。ただここにおる全員が、「子どもたちのためにします、僕たちは市の上のものと戦います、審議会ですから。ちゃんと答申して、皆さんに意見をぶつけます」というふうなことを宣言して下さい。その後の検討は知りません。それはあなた方にあると思います。けど最低限、今1年生で入ってる子が6年生で卒業するまでは、あんたらの責任ちゃいますか。それくらいは市長その他もろもろに言

わなあかんのちゃいます？30年ていうのはおかしいと思います。清和台の31年もおかしいと思います。やるんなら今の1年生は卒業させてください。特に最後、6年生で向こう行くような子。5年間こっちでっせ。向こう行って、陽明小学校歌変わるかも知れへんけど、今まで5年間緑台小学校の歌を歌っというて、向こうで1年間で卒業証書貰ってね、心の傷できひんやろか、できるんちゃいます？そんな普通に考えたらわかるん思います。だから自分たちの子ども、自分たちの住んでる所、お年寄りの方は自分の孫やと思ってやってくれたら、ある程度まともな答え出ると思うんです。あなた方も勤めている人です。立場があるのは分かります。その上でお願いしています。だから、今日はこういうことで来ましたということであれば、今から色んな人から色んな意見来ます。全部まとめて、自分らで上の人にご指摘いただいて、もうちょっと先にして、そこをいつというのは出来ないと思いますけれど、最低限、今1年生が卒業するまでは延期。ここで断定できないのは分かっています。最低限そういう内容。ただ実際には、残して欲しい。グリーンハイツを廃墟にする、お年寄りの街にするという前提ならば小学校なくなってもかまへんとおもいますよ。そういうわけじゃないと思います。緑小は、どこから聞いても、すごく教育に熱心で、評価は高いと教育長言うてましたよね、それやのに何で潰すねん。それやったらアピールして目立つようにしたらいいんちゃうん。だからあなた方言うてるのんすべて逆なんです。どう考えても、連携やなしに小中一貫やりたいがためにしか思えないんですよ。今回はそういうわけじゃないと、本心で思うんやったら、全員で、あなた方の意見聞いて、上に通してちゃんと報告します、で、定期的にこういう会を開きますと、全員が宣言して下さい、僕からは以上です。(拍手)

→はい、今のに関連してでしょうか。

<在籍 保護者>

○今の意見に賛成なんですけど、私としては、先ほどの説明にもありました通り、今回の統合に関しては、小規模校と大規模校のどちらの方がいいか検討した結果、教育委員会の方が再検討して、統合のことを説明がなされているんですよ。それに関して、ここの住民ですとか、小学校の関係者にも、そんなに前もって説明があったわけではありませんし、30年というのは急すぎると思うんですよ。私は30年を延ばすというよりは、今回の統合に関しては教育委員会の方が決定されたということで、順番が間違っていると思うんですね。小学生が減っていているという事実はよく分かってるんですけど、先ほどから子どものいる世帯が増えているということも記して欲しいわけです。それに伴って、もうちょっと検討、なんていうんですかね、統廃合を進めるというよりは、人が入ってくるように努力した結果、やっぱりうまくいかなかったら統廃合も視野に入れるっていう考え方が、本来の筋だとおもうんですね。そこの根本を間違っていると思うので、白紙撤回をした方が良く思うんですけど。今回、3回目ですけど、1回目2回目とは違って、ずいぶん低姿勢でいらっしゃいますけれども、私としてはその低姿勢をどこまで信用してよいのかという気持ちも正直なところあります。地域の方や保護者の方も、こういったいろんなご意見あると思うんですけど、今回は小学生のお子さんいっぱい来ているので、当事者である小学生にも意見があると思うんですけど、そうしたところも今回は聞いて頂きたいと思います。(拍手)

→色々ありがとうございます。統合というのはですね、すべての方が統合を望んでいるということはないですね。現実ですね、今緑台小学校区で児童数が、さっきおっしゃったように、増えていることは本当に良いことなんです。こちらとしてはですね、親元近居助成制度で、親元ですから、帰ってこられるその時には親御さんと一緒に住むというのは本当に良い事なんです。その制度もって市長部局を中心に進めております。確かにこのグリーンハイツも、去年一昨年で十数件帰ってこられたんです。それ以外にも、グリーンハイツ、清和台に、確かに空き地も結構あるんですね。そういったところに、少しずつ若い方が入ってこられています。これを承知しています。そういう過程を含めてですね、今実質28, 29, 30, 31, 32ずっといってですね、一定の推計っていうのを整理しながら、それにおそらく毎年何人かずつ入ってこられる状況は十分に承知しています。そういう中で、いい意味で、複数学級で当分の間、しばらくは緑小にしても陽明にしても進めていける可能性が高くなっている。そういう中でですね、今、役所のこともおっしゃったんですけれども、現実的には、住民の方はきちんとおられます。他に就学前のお子さんとか就学中のお子さんの数、若い親御さんが入っておられるんですが、それは一定理解しています。それを受けて、将来的におそらく、両方の学校が1クラスではなくなる、増える可能性があるわけですね。その中で、さっきおっしゃったように30年度に統合する、陽明小学校をベースにする、そして話を進めて、教育委員会の方針としてはあるんですけども、その30年度のところでですね、今もう一度、子どもさんの数が増えている状況も推測できます。そういった中で、いくつか、児童数のところ、学級数のところ、そういったことをより具体的に、統合もしする場合にどういう課題があるのかなということも改めて精査してですね、もしかしたら30年度だったところが、少し遅らせる可能性だって出てきます。そういったことを考えた時にですね、今一度、今日は3回目です。3回目なんですけれども本当に、統合実施時期30年4月のことも含めてですね、もしかすると延びる可能性だって含めて、今お話しているところです。本当にお気持ちはよく分かりますし、グリーンハイツ全体の中で緑小・陽明があって、当時40年代50年代、十数年の間、一定規模の数でずっと推移していました。そこから400人から300人、現実的には300弱、将来的にもっと少なくなっていく可能性、そういうことも見極めていく中で、あくまで見込みなので確定するということは難しいですけども、予測・推計の中で、もう一度そのあたりを含めてお時間頂いて、次の時には、説明会をもってそのお話をさせて頂きたいと思います。ですから少し延びる可能性も含めてですね、グリーンハイツ全体の、緑小校区も陽明小校区も若い親御さん来られて、40年代50年代色々あってですね、戦後くらいの数の親御さん来られたら、これでよしというのは分かるわけです。現実を考えた時、日本全体考えても、就学前も含めて年少人口14歳までの数は毎年十数万人ずつ減っているわけです。これから国が少子化対策を打ってございますけれども、本市も親元近居助成制度とか、一方、宅地の開発が進んでいるかも知れません。そういう中で、変化があって少し入ってこられるのも重々承知しています。ただ、それが300人だったのが、500人800人と将来的に増える可能性は非常に難しい。なぜかっていうと、電車が通ってそこここに空き家とか空き地とかマンションがあるわけです。じゃあ能勢口近辺に本当にマ

ンション建ちますかとさっき思ってしまったんです。でもそこは条件が違って、私は清和台に住んでますけども、確かに、難しいところがあるかと、自分も子どもたちが帰ってきてほしいんだ、一緒に住みたいということで、娘2人は清和台と一緒に住んでるんです。そういったことがですね、どこでもそういったことになったら良いんですけど、実質グリーンハイツも実際には65歳以上の高齢化率が40.5%くらいです。そういう現実の中で、今、統合のことを話しましたが、少しずつそういったことを可能性としては、子どもたちのためにできる可能性って言うのは否定できない状況があります。そういう中では、今増えてる状況あるわけです。そういう状況について、きちんと答えられるところはきちんと話をさせて頂いて、もう少し具体的に進めていければなと思っております。それまでに、これについては教育委員会の中でしっかり協議をして、いろんな方面から一定の整理をしてですね、議員の方々にご報告もしないといけません。そういう過程の中でですね、今一度、教育委員会で議論を行います。基本的には来て頂きたいなと思っております。少しはっきりと言いきにくい面がたくさんございます。でもここで、そういう中では、ご理解いただきましてですね、本日、今お話をさせて貰ったところが、ひとつの方向性については大きなことなので、そこをご理解いただきたいなと思っております。

それからですね議員さんのこととか、そういったことは全くそれは関係ないです。結果的に鈴木教育委員もおっしゃいましたけど、結果的にはその中に教育委員会に入って頂いたと。大事なことがあって、そういったことで委員になられた訳ではないんです。本当です。教育委員会として本当に、これから先見た時に、統合を進めていくことはどうかなということは、先ほど部長が申しましたとおり一定の判断をして行かなければいけないという時期はあるということです。

→お子さんが手を挙げていますので、ご意見伺いたいと思います。

<在校生>

○この緑台に4年間通ってる遠い人のことをちゃんと考えてるんですか。もうちょっと遠くなったらさ、もうちょっと遠くなったらもっともっと遠くなったらそのさ、遠い人だってさ、もっと遠くなったら疲れるやん。それちゃんと考えてるんですか。以上です。

→次の子どうぞ。

<在校生>

○僕は、陽明小に行くのは反対です。なぜかと言うと4年間緑台小学校に通い続けて、色々な友達と思い出があるからです。終わります。

→ありがとうございます。それに関わってございますか。

<地域の方>

○私はこの近くに住んでる者なんですけど。ちょっとお聞きしたいんですけど、この児童の推計は、さっきもちょっと言ったんですけど実数で間違いないですか？予想？子どもが、児童数推計は実数じゃない、予想ですか。予想ですね。緑台小学校の校区には、向陽台1丁目2丁目と緑台の1丁目から7丁目までありますから、範囲が分かるとしたら役所のことやから0歳児1歳児の数は当然、正確な数字が分かると思うんですけど。それは大事なことやと思うんです。するにあたってはきちんとわかることはすべてやって、きちんとやらなあかんとは思うんですけど。それとね、世代交代、新しい家がたくさん建っててね、私もこの辺散歩しているから分かることなんですけど、結構建て替え多いんですよ。二世帯で建て替えてはる人もいると思うんですよ。それと私なんかは夫婦で歳いったもんで、売ってしまった、出ていった人もね、いるんですわ。ここは建ぺい率50%やから、63坪くらい。それで大体ね2500万から3000万ぐらいです。こういう家がね、どういった方が住まれるんか、20代から30代の若い人です。35年後、私ら70才やから35年後100才ですけど、当然若い人が関心を持ちそうな、そういう建て替えのチラシが結構あります。そういうところは若い人口も増えるし。やっぱり人口増やす方向に向いているんですよ。2000万から3000万がね、頭金なしでも35年ローンを組めるということは、一定の人口増加の可能性がある、そういうことも検討されたらあまりにも、淡々と決められるのは時期尚早やと思うんですけどね。まあ私は初めて参加するんですけどね。初めてやから言えるんですけどね。まあ率直な意見ですけど。そういうところも考えて欲しいんですけどね。以上です。(拍手)

→そしたら、他に、別の方。

<地域の方>

○もう、孫も高校生になりましたので、ちょっとしばらく小学校に上がることはないんですけども、統廃合に賛成したら、基本的にはこの地域の中心部にあるのはこの緑台小学校じゃないかなと思うんですね。じゃあ緑台に来ませんかという陽明小学校の方が反対されると思うんですね。で、私が、根本的にそういうことを無くすには、やっぱり25人学級を実現させる、そうすれば、統廃合ということはなくなるんじゃないか、だから、やっぱり小中は25人学級ということにすれば、全国的に解決する問題じゃないかなと思います。それで、すぐには25人学級になりませんから、当分の間は単学級をしっかりと、複数担任制ということで、その実現までは置きますっていうような経済的な補助をやってくださればいいんじゃないかなと思っております。以上です。(拍手)

→ありがとうございます。後ろの男性の方どうぞ。

<在籍 保護者>

○私もともと川西に住んでいましたけど、緑台に引越してきました。やっぱりこの環境とかも含めて良いつて言うのを聞いていましたし、実際に住んでみて良いので住んでいます。こういったところで、市として新しく入ってきた人数を把握しているにも関わらず、調査した段階での人数しか出してないというのははっきり言って落ち度でしょっていうのと、先ほど言われてましたけど、もともと2校で考えて、本当に市として統合しなければいけないのであれば新しい学校を中心部

に造って、それでも統合したいんですというぐらいの熱意を持ってらんなら分かるんですけども、とりあえずあっちに引っ付けというだけでは、保護者の方は納得しないし私も納得していません。で、どっちかって言うと緑台が先にできているのであれば、人数も緑台の方が多いのですから、緑台に引っ付けようっていう考えでもないって先ほど言われてましたけど、裏で議員の方なりなんなりの人から、こっちに引っ付けろと言われてて、それを「はい分かりました」とやっているようにしか考えられないんで、白紙撤回は出来ないって言われてましたけど、もう本当に考えてます？だから、個人として言えないのなら、市として、市の責任は言えませんが私個人としてはこう考えていますって言う意見はないんでしょうか。先ほど言われていましたけど、将来的に減ってくるから統合するんですというふうには感じられませんでしたので、統合したいって言うのはあなた方の意見なんですよ。そこをもう一回率直に聞かせてください。(拍手)

→いくつかありましたが、まず25人学級にしたらいいいというもの。私もそう思います。ただし、学校というものは建物は市のものですけれども、教員は県費職員、県の職員になりますので、県の職員イコール国の定数というところで配置しますので、もちろん25人学級になっていくことについては、決して教育委員会としても反対しているわけではございませんので、そういったことは考えていきたい。その部分は申し訳ないですけれどもそれで。推計の出し方というところですけども、0歳児は、はっきり人数がわかります。例えば平成27年度に0歳児が生まれた人数ははっきりとわかります。ところが今年度、平成28年度に生まれる子どもはわかりません。ということは、その時の人数がそのまま推移していけば入学何人というのが分かるんですけども、その中で出入りが当然ありますので、推移でしか表せない。答えが分かれば私どもも答えははっきりするわけなんですけれども、ですので、推移で表させてもらっているというのは納得して頂きたいなと思っています。

それから、色々なことが出て来ています。その中で、ひとつ、学校の統廃合につきましては教育委員会で意思決定していくことになっていますので、色々な関係している議員さんとかそういう話も出て来ておりますけれども、基本的には教育委員会ですし、その中で委員さん方の意見っていう、そういう形です。そこはご理解いただきたいなと思っています。

それと、色々なご指摘いただいておりますけれども、ひとつは、本日ご案内させて頂いたのは、市としての方針を決定をお伝えする場ですということですので今までお伝えしていました。で、今日言わせて頂いたのは、今まで話題に上っている人の出入り、そういったこともあるし、今たくさんいろんな課題出して頂いています。それをもう一回整理しないといけない、ということで、今日の会を持たせて頂いています。非常にグレーな言い方しか出来てませんのでご心配とかもあると思います。途中、意見を言っただけの方がすごく理解していただいて本当にありがたいなと思うんですけども、そういったことで、われわれは今日は何にも結論は言えませんが、もう一度しっかり考え直していきたいと、そういう立場で来させて頂いていますので、先ほどのご意見頂いたことも、重々肝に銘じましてしっかりとやっていきたいと考えています。

○推移は分かるんですけど、じゃあなんで出入りした人の人数を載せないんですか。今時点の人数

だけ載せてそれは推移でもないですよ、例えば何年に何歳の子が入ってこられたっていうのは市で押さえてるでしょ。その人数を載せれば、逆にここは今まで増えてきたということが分かりますよね。逆に減っているかもしれない。今のその時の調査の人数だけじゃなくて、その前に遡って、生まれた時は何人だったけど、後から入ってきた人が何人いましたとか、それくらいは伝えるべきで、その情報は出すべきではないでしょうか。

→先ほど言った中に、そういったことをもう一度きちっと整理してということに含まれていることですので、そういうことも今後出していきたいと思っています。

<在籍 保護者>

○先ほど木下さん言われた、私は第1回からずっと出てるんですけど、決定事項じゃないと今さっき、1回目2回目は決定のように言われたんですけど、決定できてなかったと今言われましたよね。この3回目では濁すことを言うてはるんですけど、ただ私はずっと1回目も2回目も出て、ずっと決定じゃないと言われてますよね、毎回。にも関わらず、先ほどの話も戻りますけど、ホームページも見させてもらいましたし広報も見ましたけど、何で決定のように回してるんですか。地域にも回っていない間になんで教育員会がまだ決定していないことを、決定事案のように回したのかと、うちの子どもたちに、何で校区外のね、通学、校区外通学で緑小から人間を出すようなまねを昨年度行ったんですか。決定してないのになんで校区外に行っていていいですよということを何で前もってやったのかを疑問に思ってるんですけど。詐欺じゃないですか、決定もしていないものを。何で前もって緑小の子を減らすようなことをするんですかと、教育委員会の職員と2時間くらい話しましたずっと。申し訳ございませんと、手違いですと。手違いってなんなんですかと、手違いで人数減らすんですかと言うたんですけどね。言ってることとやってることがむちゃくちゃなんですよ。言い逃れにしか聞こえない今言われていることも。「白紙に出来ない」も「統合したい」にしか聞こえないんで。陽明小の保護者の方もね、ここに数名来られてます。その人らも、当然同じになるんです。だからこのグリーンハイツの人間をあなたたちは分裂させたいんですかという気がするんですよ。人数的な問題も、先ほどから何回も言ってますけど、減らすことやめてくださいよ、市がそんなことを率先して。ホームページに決定事案として回しましたよね、これ。先々週くらいに広報回ってきたのも、決定のように回しましたよね。なんで決定していないのに決定に変わってるんですか。説明の前に決定が先ってどういうことなんですか。

(おかしい・詐欺 他)

○何で説明会の前に、決定してますということをホームページに書いてるんですか。

(教えてください)

○あなたたち決定してないって言い張ってたじゃないですか。

(ホームページ削除しろ・おかしい 他)

○何で決定って書いてるんですかって。これで小学校変えてるんですよ子どもたちは。

(今年1年単学級です・誰のせい 他)

○ほんで緑小は平成30年には34人なんですよ。すでに転入してる子どもたちはこっち来てるんですよ。ほんなら緑小の子は1人2人増えたら単学級出来ないんですよ。何で緑小潰さなあかんですか。そんなん言い出したら陽明の人と揉めるの分かってるでしょ。

(勝手に決めるな・勝手にまわすな)

○だから何で決定で回したんかを言ってください。牛尾さんでもいいですから。なんで決定のように回したんですか。なんで小学校に、他の学校いいですか、良いですよと言うのを、決定する前に、なんでうちの子どもの友達たちを他の学校行かしたんですか。牛尾さん。何でなんですか。なんで決定でもないのに他の学校に行かしたんですか。

(答えてください・ひどすぎますわ 他)

○なんであんな人数減らすようなことしたんですか。なんで他の学校行っていいってやったんですか、決定前に。

(答えてください・なんでやってん先に・早く答えてください・聞こえてるやろ 他)

→まずホームページの件です。

(誰が書いてん・即削除しろ 他)

→ホームページの話ですが、難しい話になるかもしれないですけど。

(簡単や・削除したらいい)

→学校は地方公共団体、つまり市が所有しています。学校いうもんは市が所有しています。ただし、今回でいいますと、廃校につきましては、別の機関つまり教育委員会がそれを決めています。というのは、地方教育行政の組織運営に関する法律でそれははっきり定義されておりまして、学校は市が設置するんですけれども、それを統合あるいは廃校、そういったことについては市の教育委員会が決定して、教育委員会が決定したことを受けて、市のほうが動いていく。そういう形になっています。つまり表裏一体の関係になるんですけれども、教

育委員会としましては、一つの方向性を決めていかないとお示しできないということで、教育委員会としてはホームページに載せさせていただいたというような形で決定していると、そういう表現、つまり川西市教育委員会が決定したからと言ってそれがすなわち。

(そう書いて無いやんか 他)

→すぐにそういうことではないということです。

○だから、来られてるのは教育委員会なんですよね。毎回説明会来られているのは教育委員会ですよね。あなたたち教育委員会が決定してないと言っているのに、なんで決定なんですか。

(おかしい 他)

○説明が合わへんでしょ。教育委員会では決定していたんですか？でも我々には決定していないって言ってたんですか？

(牛尾さん答えてください)

→教育委員会としては、方向としては決定していましたがけれども

(決定って書くな 他)

→そのことイコールいわゆる

(詐欺や詐欺や 他)

→市としての決定ではない、そういうご理解を。

○だから、教育委員会で決定してんのは、おたくらの内々の話であって、保護者関係ないでしょう。一般のホームページ見られる人に関係ないでしょう。あなたたちの会議で決まっただけのことでしょう。なんでそれを決定事項のように書くの？9年前は、話聞いてたら教育委員会と市は別の存在でしたよね、今まで。市長とやりあってしてましたよね、教育長。あなたたちは今市長の傘下ですよ、いわば。戦ってないですよねいっこも。

(戦え・子どもたちのためでしょう)

○2回目から何回も疑問に思うことは、決定してないのになんで、学校の校区外を許したんやと聞いてるんです。あんたら言ってることおかしいでしょうが。ほんで私がずっと思うのは、去年の冒

頭でやった会議ね、川西能勢口でやりはった、なんで議事録が4行なん。

(4行、少ない)

○ほんで書いてる4行も「異議なし」のみ。こんな会議ある？民間で。ほんで、事前に会議の前に事前に説明を十分受けてますから、必要ありません。何で質問、会議の前に具体的事項を先に説明してんの？どこの場で市民にやることを、どこの場で先にやりはったん、牛尾さん、あなた議長でしたよね、その時。なんで意義なしで終わってるんですか。どこの誰に説明したんですか。

(答えてください)

○基本的におかしいでしょう。日本は法治国家ですよ。あんたら議会で通る前にこれ掲載してるんですよ。

(ホームページすぐ削除してください)

○牛尾さん。法治国家ですよ。これ議会通ってないですよ。なんでこれ決めてるんですか。

(答えてください)

→最初にホームページですね、それについては、掲載して方向性を示すということで、それで。

(もうちょっと大きな声でお願いします・聞こえへんわ)

○だから、方向性を示すのと、決定するのは違うでしょ。

(そうだそうだ)

○教育委員会としてはこう思っていますと書いたら分かりますよ。子どもたちが減っていているのは理解していますよ、川西だけの問題じゃなくて、日本全体の問題でしょ。でも子ども増やしていこうと力入れていきます言うてるでしょ。減らすこととしてどうするんですかこれ。

(牛尾さんが答える)

○ずっと言ってる陽明さんは、前も話しましたが、一種低層ですよ。向こう。マンション建てるのにマンション問題出ますよね、向こう。ね。こっちは道路沿い、幹線沿い173沿いとか、あのへんは商業であったり近隣商業であったり、色んな援助できますよね、使えますよね十分マンシヨ

ンとか。ほんで学校もこの方が、駅に近いんですよ。路線だけで言うたらこっちの方が上なんですよ。それ考えて土地買った人たちの責任をどうとるんですかと前も質問したんですよ。子育てがしたいからここ買ったんですよ。だから市は買い取るんかと質問してね、買い取ってくれんのかと、出ていきますからと。私川西市民ちやうからねもとは。子育てにええかな思て買っただけであって。出ていってあげるから買い取ってくれ。そんな簡単に決めるなら。こんな相場崩れなとこいらんから。あんたらが子どもの事考えへんなら金のこと考えるよ。生きていかなあかんから。

(補償してもらおか)

○だからあんたら決定してないことをなんで配ったんて、それを答ええや。牛尾さん。

(答えろ答えろ・本市では統合しますとはっきり書いていますホームページに)

○何で決定ちやうのに書いてるねん。秋口また予算審議会でしょ。あんたらそこまで引き延ばして予算戻してもらおうとしてんちやうの。おたくらそれ集団訴訟起こすよ、牛尾さん。あなた名義で。おかしいよこれやっていることが。理解していますねある程度はいけますよもう。おかしいことになっているんですよ。

→ホームページにつきましては、十分な形で説明ができていなかったということで、削除させていただきます。で、あの。

(削除じゃなくてお詫びやろ 他)

→ただ、決して、決定事項とあくまで言っていますけれども、市としての決定事項ではないということ。

(ほんなら書くな・だから緑小も陽明も残したらええやん、よくわからんことやって地域みだすなよ・おまえらやっていることがめちゃくちゃやねん、どんな税金の使い方しとんねん・そうや、俺らの大切な税金やぞ・間違ってしまった削除しますの一言で済ますけど、そんな問題か？詐欺みたいなことしといて、入ってくる人間減るやろ・削除するということは間違い認めるってことでしょう、今から削除すると言ったでしょう 他)

→誤解を招くような形なので、撤回したいと。

(あなたたちプロですよ・何でこんなこと分かれへんかったん・分かっているやろ・牛尾さん、あんた教育長やろ・責任をとってください責任を・4行って何やねんだから 他)

→確かに方向性をもって、決定しようという動きであそこには載せたと思うんですよ

(だから方向性を決定ってなんで入れたんや・謝れや・意味わからん 他)

→そこは本当に、おっしゃった通りだと。

(撤回やれやあほ)

→方向性として、お出ししたんです。

(だから方向性を何で決定って書いてんのって、嘘書くなって・責任をとってください・何で緑小の子たちに校区外言っただけですよとやったんですか、何で決定してないのにやったんですか・わざとや・責任とってよ・やってることむちゃくちゃですわ・お前ら教育ってよく言えるな、恥ずかしくないか子どもたちに・牛尾さんあんた元校長やろ 他多数)

→ちょっと、他に意見を、手が上がってますんで。

(答えろよ、答えたら座ったから・答えてないやろ・何で決定前にやったんや・それは詐欺まがいなことしてしまったということか 他)

→教育委員会としては、そこは決定事項と。

(じゃあ間違いだったって書いてください・その職員はトップダウンされたんですよね、おたくらが上からトップダウンしたんですよね・口悪いのは申し訳ないけどね、子どもは声出されへんから、保護者は子どもと一緒にやねん 他)

→今おっしゃっているのは、確かに、おっしゃった通りですね。おっしゃった通りなんです。方向として、こちらとしては書かせてもらいましたが、でもおっしゃった通りこういう状況の中で、実質子どもたちの状況も変わってきているという中で、地域の方のお声を聞く中で、実際に今の話としては間違っていたと、ですから。

(違う所に行きましたよ、10人くらい行きましたよ・もう教育委員会が統合というふうに出してしまったら、住民たちは何も言えないんですよ、教育委員会が出したことはすごく重たいんですよ・もう動いていますよ子どもたちが・うそばかりつくなや・責任とれよ・子どもたちはどうしたらいいんですか・謝ったんやから責任とりや 他多数)

○なんでさきに子どもを校区外に、緑小の子を出すように誘導したんですか。やり口汚いでしょう。

(そうだそうだ)

○なんでそんな誘導したんですか。

(言えや・教育長お前が答えろよ、トップやろ・トップが立てや、お前トップやろ・トップがしゃべれや 他)

→ちょっと聞いてください。

(トップがやれよ 他)

→実際この段階では、決定事項と思ってその段階での方向性を踏まえて、

○決定事項じゃないと言っていましたよね、嘘？嘘ついて決定事項を決定事項してませんよと散々言っていただけ？

→その段階ではそういうことで。

(段階の前に出したやろそれを 他)

→そういう可能性もあるということで

(可能性で出したんちゃうやろ、すでに子ども出てるんや・やめろや・嘘つくなよ・決定じゃないって言うてたのに・どうすればいいんですか・間違いで済む問題ちゃうねん・何でそんなんしむけてん・何でそんなんに子ども巻き込むねんお前ら 他多数)

→その段階では、選択して頂ける可能性を。

(決定してないのになんでやったんか答えろや・決定してないでしょう 他)

→そこは本当に申し訳ないです。

(だから聞いてるやろ。教育委員会は法で決まっていなことをね、議会で通ってないことをあんたらは進めたでしょう・責任を取りなさい・何が教育や・何で減らしたんですか、何で緑小の人間減らしたんですか 他)

→そこは本当に申し訳なかったと思います。

(申し訳ないじゃダメやろ・責任を取りますって言ってください・決定してないって言うのってや

ろ、ずっと俺らに、何で決定やねん・議会も通ってないことをお前ら何で決定やねん・そんなんあるんですか法治国家やのに、俺らの税金で飯食ってんのに 他)

→本当に申し訳なかったと思います。

(嘘でしたってカメラに残せや回したるから、おい教育長、はよ言えよ嘘ついてましたって、全国に流したるから・責任とれ責任・こんなやつが教育長ですって回したるわ・何があんばいええねん・子どもたちに嘘教えんのか教育長・大人が嘘教えんのか 他)

→分かります。本当に申し訳なかったと思っています。

(嘘ですかって聞いてんねん、決定じゃないんですか・決定じゃないことでやりました私はって言うてください・教育長お前がやってんねやろ 他)

→確かに教育長は私です。決定の体制で考えて進めていたんですけど、実質は最終決定ではないんです。そういう面では間違いだったと思います。

(責任をとれ・決定もしてないことを決定したかのように小学生の保護者に回して、学校の統合先を変えさすようなことをしましたって言うてください・そうだそうだ 他)

→決定ということをですね。

(うそつきー・うそつきー・言うたことを認めろよ・責任とれ責任 他)

→教育委員会としての決定事項ということでホームページに載せています。ただ説明会で何回もお伝えしているように、教育委員会としては決定していますけれども、最終的な決定って言うのは、説明会の中で検討させて頂くということで、通知をさせて頂いていますので、あくまでも教育委員会としての見解を述べただけのことですので、そのことによって誤解を招くようなことがあるとするならそれは申し訳ないと思いますけれども、いわゆる、

(お前しゃべんなもう、お前の話聞きに来てるんちゃうねん)

→教育委員会の決定である、ただしこうやって何回も説明会をして。

(座れお前、失礼な奴やな、木下、終わって無いやん、何でお前なん・そんな説明いらんねん時間の無駄やねん・答えるのはあんたじゃない 他)

○反対票も5000人以上集まっていますよ。まだこれからどんどん集まりますよ。おたくらに賛成

している議員、こっち側に賛成している議員さんもいてるんです。おたくらだけがすべてちゃうからね。何回も言うけど、この出入りの話も、おたくらの職員が回せ言われたから回したって言てんねん。

<保護者？>

○ちょっとすいません。今日はたくさんお子さんがいらっしゃっていますので、お子さんの話を聞きましょうと言いましたよね。で、みんな子どものために話し合いをしましょう、子どものことを一番に考えて話し合いをしましょうと言っていますよね。で、子どもが、もっと遠くなんねん、思いつきなくなっちゃうやんと、言ったことに対してまだ答えて頂いていないです。

(うそつき・うそつき牛尾、絶対許さんからな。人なめんなよ、お前が悪い言うたからな。おかしい)

<保護者？>

○自分の体験踏まえながら言及させて頂きたいんですけど、私がここに引越してきた理由は、ここに小学校があって隣に高校があるから、子どもが生まれた時にこの家を買いました。で、買い取ってくれ、みたいな話になってますよね。で、それはひとつ。もうひとつ、体験談。母校がここなんですけれども、すごく愛していた学校が閉校になります。で、ひとつ心の問題なんですけど、ここみなさん見てください。プレートが貼ってあります。これ卒業生の名前ですよね。卒業生みんなの心に穴を作ることになります。あ、自分のところは無くなってしまったな、寂しいな。自分だけじゃないです。お父さんの小学校ってなくなったんだね、お母さんの小学校ってなくなったんだね。すごい寂しい思いをするわけです。だから安易に小学校をなくすことはすごい責任があります。で、ここで小中学校適正規模、適正配置に関する手引きっていうのを読んだんですけど、まさにこの市はガイドラインによく線に沿ってるなと思います。で、ここまで手続き通りに機械的に進めているなと感じました。でですね、この中に再三書いてあります。地域コミュニティの意見を聞くこと、それから決してこの手引きを杓子定規に適用してはならないと書いています。ここまでガイドラインに沿って手続きを進めているわけですから、そういう点もしっかり考えて頂いて統合するっていうのは、すべきじゃないですかね。もっともっと地域の力を結集してですね、この地域が良くなる方向に、もっともっと地域が発展する方向に僕はすごいなってほしいと願ってます。以上です。(拍手)

→ありがとうございます。女性の方。

<地域の方>

○先ほども言われましたけど、緑台小学校の卒業生とか、今在校生のお母さまたちは無くなるのってなって、公立の松風幼稚園に行った人も、松風から緑台小学校に行かれていますお母さんたちにも、大人ですよ、大人で、僕たち私たち出た学校どっちも無くなるのってそういう声も聞きます。どっちも無くなる、かわいそうですねえ。本当にそう思います。(拍手) 教育長さんはじめこちらにい

らっしゃる方も人間です。もっとしっかりと緑台小学校を守るべきですよ。そして子どもたちを育てて、学校のことを一番よく分かってますでしょ。その人たちがですよ、上からの圧力があるからといって、上のいうことを聞くんじゃなく自分たちの意思をもっとはっきりしてください。そう思いますよ。そして今こども園、認定こども園のことも言うておきます。とても危ない。人命に関わる事です。みなさんも知っています。あれも決定しています、と言います。みなさん。あれも決定したんです。松風も決定したんです。違います。全部決定していません。5000何人集まってます。松風では8500人の、みんな残してくれっていう、グリーンハイツに残してくれっていう希望です。そして私も今5月1日から。そんなところに建てることは絶対反対ということで今、3000人以上の人がみんな署名してくれます。もっとこれから集まるでしょう。

そして、私は常任委員会に行きました。5月16日。どどんみなさん来てください。腹が立つほどです。それには教育長も、議会の方、ここには来ていない副市長、来てらっしゃいます。松木さんとか。大勢来てらっしゃいました。市長は30年でやめるから。みんな統合する、こども認定園もつくる。そして川西市はですね、今では尼崎よりも評価が負けて、住みたくない町。寝屋川が一番下です。その住みたくない町の下から2番目ですよ。市長は悪気がないんでしょうか？いえ、あると言えばどっちにしろなんとかするけど。未然にその、防いでしまいます。ではしっかりしてくださいと言っています。ですから私はここに出て来て、ちゃんと言いたいです。市長が来てくれなかったら始まりますか。なんの市長なんですか。飾りじゃないですよ。本当にこの若い人の、私初めてこの場で聞きました。私認定こども園のこと一緒にやっていますから。若い人のころ、気持ち、真摯に受け止めるんですよ。本当にリコール起こると思いますよ。裁判も起こるでしょう。そんなね、人をだまして良くないです。そして、一番みなさんに言いたいこと。常任委員会は5月16日にありました。みなさん教育長とかも出てくるんです。傍聴できますのでみなさん是非是非行かれたらいいんです。ものすごく分かりますよ。傍聴しましたら。私行きました。そうしますと、市議会議員が話、説明受けるんです、そこで協議するんですけど、教育長たち言われたことに対してですね。それに反論する市議さんもいれば、反論も何もしない市議さんもいました。これが今決定でないということも、黒田、共産党の黒田市議が、女性の方です、しっかり言って頂いたから今日決定でないということが決まっているんですよ。本当ですよ私は聞いているから、傍聴してましたから。ものすごく腹が立ちましたよ。黒田議員が一生懸命言っておられました。それとですね、表がありますけど、もうこの中には、陽明の、陽明じゃありません緑台小と、それから松風の空調設備ですね、14校は載ってるんですけどね、載ってない、空調設備が載ってないんですよ緑台小と、松風には。載ってないんですよ、どう思われますかみなさん。こんなの協議してるんですよ。というのは載っていないのは空調設備は、よその学校は14校は小学校14校、陽明は入っています。久代・加茂・川西・桜が丘その他は全部載っています。しかしここに緑台小と松風には載っていないんですよ。腹が立って。そしてこのままじゃグリーンハイツ、緑が、桜が咲いてきれいな街です。それを残しておくには住民が立ち上がらないと何にもなりません。その住民が立ち上がるためには私たちは選びます。今回の自治会の副会長桜井さんはじめ、そしてコミュニティの後藤さんをはじめ、そして市議。ここに3人も来てらっしゃいます、平岡讓市議、そして、多久和さん、岡さん。3人来てらっしゃいます。聞いてください。みなさんがこのグリーンハイツで選んだんです。そしたら基本的スタンスでみんなやらなければこの街は。本当ですからこれはしっかり聞いとい

てください。ですからわたしは思います。この若者たちの真摯な声を、そして子どもたちの今の真摯な声を拾って、教育委員会の皆さんは、大塩さんにも今度こそ来てくださいと言ってましたと言ってください。そして、今言いました、自治会の会長もみんな、これだけの若い憤りの声を、頑張っていて欲しいと思います。(拍手)

ですから、黒田議員が言わなくてももう分かりますよね、みなさん。もう一回黒田議員がしっかり、これは決定じゃないんですね、決定のように書いてますけど、みなさん。今回で終わりにしますと、終わりじゃないように黒田市議さん言っていました。それが無かったら言われないうりもう決定しているかもしれません。そして見直すこともなかったでしょう。空調設備を見直すこともなかったでしょう。本当にグリーンハイツの皆さんがひとりひとり大切に思っているからこそ、これからは立ち上がって、皆さんと協力していきたいと思っていますけど。教育長さん真摯に、今の言葉を、本当にリコールをとりますよ。リコールをとります。お願いします。(拍手)

→今お話いただいた中で、一点だけ、ちょっと誤解があってはいけないので、お伝えしますけれども。

(言い逃れすんな)

→空調の話が出てきました。これは、5月16日のときに、予定として、こういう形で進めていきますという、ひとつの案として出されたものでまだ決定したものではありません。日程は、これの最終については、すみません、日ははっきり覚えていませんけれども、6月に入ってからのことについては決定するというので。それは、教育委員会として今の段階で案を持っていますので、それに対して、そういう形が出てきたということがございますので、今後教育委員会の方向性に変更があれば当然空調の方も変更があると、そういう捉え方をしていただければと思います。もう一度言いますけれども、前回の常任委員会については公開ということで、今こういう形で進めているということで、いろんな方のご意見を頂いて、最終決定を6月になっていきますので、まだ決定しているというそういう段階での話ではございません。

(その2校省いたんたまたまか・おかしいやろ・たまたまかいや、うまいことなっとんのう 他)

→ちょっとお待ちください。どうぞ。

<地域の方>

○私は孫も卒業してかなり経っていますので。それでもすごく憤りを感じます。ここの小学校の父兄の方、ものすごく大変です。子どもたちはもっと大変だと思います。教育委員会の方はそういうこと考えてください。それとみなさん発言したいけど時間が足りないと思います。この説明会をまたもう一度してください。それから保護者からのお尋ねあった、さっきから決定事項のようにどうのこうのありますけど、確かにいまここで決定事項として、私はパソコン見ませんけど、これを見

てないので分かんないですけど。それを決定事項として回したんですよね、で、決定事項としてすみませんでした、では済まないです。それこそどう責任を取るのか。と言いますのは、小学校で、どっちの小学校に行きますかと、新1年に関しては、健診の時は、40何人いて、良かったねって言ったのに、実際入ってみたら一クラスです。担任の先生もひとりいません。これは教育委員会が、アンケートをとって、市として緑台小学校は廃校で決定しましたっていう文章がまわったらしいんですが、その文章について、きっとお持ちだと思いますので、次の機会で皆さんに見せてくださいませ。こういう書類でしたと。このことは間違いでしたでは済まないですよ。既に子どもたちが移動して、すいませんでした、で子どもたちが戻るんですか。教育委員会は、私は緑台小学校を減らそう減らそうとしているようにしか思えないんですが、間違っていましたということですね。一生懸命子ども達の事を考えて、すみませんでしたで済むことと、済まないことがあるんです。今もここで決定だと、市としての決定で、その対応をすとおっしゃっているということは、それに対して何も。すみませんでしたでは済まない。じゃあ、今このために教育委員会のミスをどういう風にして、修正していくか。

(白紙にしろ、白紙やろ 他)

→すみません、こちらの方、ずっと手を挙げてましたので。

<地域の方>

○やはり、我々の地域にいわゆる小学校なり、公園なり。そして住み着いた。これね、地域の都市計画として、おそらく基本的に川西市がこういう夢のある街を作るんだと、それにこの土地は、結局税金で出来たものではない。住民の方が、公園を含めて寄付したってなってるんですよ。そう簡単につぶせるもんじゃない。で、これほど今グリーンハイツはどういう状況にあるか、おそらく6件に1つ新築なんですよ。この資料後でお見せしますけれども、わたし緑台1丁目2丁目と4丁目、友達と一緒に調べたんですけど。実に6件に1件。本当にすごいです。だからその状況の中で、学校を廃校にするような状況じゃないと。この状況、絶対期待して欲しい。それと校区審議会の基本的な理由が3つあるんですけども、1つは子どもの安全。これはさきほどから話しあったように、高低差だけでも75mあるんですよ。これは当然です。あと、地域の核として存在する学校が無くなることに対して十分考慮せよとあるんです。運動会にしたってね、あるいはこの緑台地区の住民にとってこの学校というのは故郷なんです。絆をね、運動会にしても絆を深める大切な行事なんです。だからそういう意味でも、この緑台小学校の意味というんですか。特に内陸型地震が頻発して、阪神淡路大震災の時に私も行きましたけど、小学校の教室も含めて体育館、避難の核になっていました。今こどもそうです。緑台地区の重要な核になるわけです。これはね、そういういろんな意味もあるわけで、核として残して欲しい。適正規模の問題ですけども、文科省が、4月何日かの読売新聞に出てたんですけど、文科省が、学校の統廃合によって地域が非常にさびれていく、若い人が入ってこないことを考慮して、去年全国の市町村に学校の規模、7クラス以下の場合には統合の対象と考えるようにという通達を、12年2月の時に見直しているわけですよ。そのことから見たらですよ、今、行政の変な操作が無ければ今年も緑台小学校は2クラス維持できてたわけですよ。

だからその意味ですね、文科省の理由から見ても、今の規模というのはですね、緑小も陽明もですね、私は別に統合を考えるような状況にはないと、適正規模と考えます。今ずっと書類が集まりつつあるわけですけども、本当に5000名以上の方がどういう気持ちで署名して頂いたか、十分考えて頂きたいと思います。

→まずホームページの件です。ホームページの件は、先ほどの説明にもありました通り、誤解を生むというか、嘘というか、そういうようなものを載せていました、申し訳ありません。ただ、当時、一番最初にホームページにアップした時は、校区審議会が終わって、手順としてはそこからいろいろせなあかん、市議会であるとかそれから市長説明であるとか、そういう手順を踏んで、ほぼ決定というような動きで進んでましたもので、その頃から引越しを考えておられる方にご案内する必要があるだろうということで、善意でしたつもりでした。

(うそやろ、うそつきじゃ)

→いえいえ、すみません、それで

(へらへら言うな偉そうに)

→いえ、それも理由があるんです。それも理由があります。わざわざ緑台のお子さんを減らすためにあれをやったわけではありません。あの、色々ご家庭の事情があって、ご家庭の事情があったんです。で、

(行ったんかいな、一軒一軒行って聞いたん?)

→その特別な事情については、個別にお伺いしています。全員に聞いております。

(何軒聞いたん、何軒中何軒聞いたん?どれくらいの時間かけて行ったん)

→あの、すいませんが電話でしております。

(そんなんほんまにしたん?)

→いえ、しております。本当にそれはしてるんです。で、色々な事情があって、

(個人情報って言ったら出さんでええもんな)

→いえいえ。で、そういうことがあって、しないということで一応考えさせて頂いています。

結果として、こちらの学校については1クラスになってしまったという。

(校区内に行くんは、別にその一個一個生徒に渡さんでも、保護者から聞きますよね、ここの学校は校区外に行けますかって、保護者から聞きます。なんでまた誘導する必要があったんですか)

→いえ、誘導はしていません。

(誘導したやんか、こども貰ってきてるんやって紙。どうしますかって。校区外行かれますかって。特別措置ですって。なんでそんなん、おたくらは、保護者の声があったからその声を聞いてやったみたいな言い方してるけど、だれもそんなん望んでないでしょ。)

→いえいえ、だから

(だから普通に、校区外行きたいってそういう話聞いたんやったらね、その親一人が、そこに言ったらできることでしょ。そしたら校区外登校認められてるやん。市がいいよ言うたら通ってるやん。それ知ってるやんこっちも。なんでわざわざそれを学校通してやったんやって聞いているねん。3人4人の話を聞いて、こんだけの人数が集まって反対反対言うても、あんたら全然聞いてへんやん。)

→いえいえそんなことは

(いえいえちゃうやんずっと廃校の方に持っていったるねん)

→違います違います。だから、

(いや陽明も緑小も残せ言うとなねん、揉めるねんこの地域が。お前ら揉めさせたやろ)

→最初に説明した時、そういう

(緑小の中でも賛成反対出てるわけやんか、ね。その父兄同士も争いだしているわけでしょ、目に見えないところで。おたくらこの状況分かってるんか。揉めさせたいんか、地域住民を)

→そうですね、あのそうじゃないんです。

(だから白紙にしるや、言えや白紙やって、この地域は無理ですって言えや)

→違うんです、ここでもう一度統計取りなおして、きちんと手続きを踏めば、そういう答えがきちんと出ますから。

(答えへんやん、一回目も二回目も質問してるけど、今回も答えない、防犯のカメラ付ける言うても費用の問題、人員の問題、誰が管理するとか、その問題についても今回答えない、自分ら何も答えへんやん、聞いて帰りますだけや)

→それは2回目までなんです

(2回目までで決定やからお前ら決定で回したんかいほんなら。そこやねんずっと言ってるのは。)

→そうなんです、で、

(だから、そこやろ。決定してないのに、市で決定してないのにお前ら決定でまわしたやろ)

→いえ、違うんです。だから、軌道修正を

(校区審議会にしても、別に認めてないねん、自分ら認めてるみたいに言うてるけど、この場でも。安全上に問題があるんじゃないかという声も出てましたよね。おまえらそれ言われてんのに、嘘っぱちここでいうから。別に認めてないねん校区審議会で。そうやねなんて言うてないねん。誰がそうやね言うてん、子どもの安全を先考えなさいって言われましたよね。じゃあ誰がこんな校区審議会が認めたと)

<来場の方>

○申し訳ありません、いろんな方がいらっしゃるので、同じことの繰り返しにならないように話を進めて下さい。お願いします。

→はい。すいません。あの、決してそのような言葉でその場しのぎのことを言うわけではないです。で、今回はとにかく、ちゃんと考えるということを、

(じゃあ今までちゃんと考えてなかったん?)

→いえいえ、そういうことではなく

(暇じゃないねんこっちは、仕事休んできとんねん)

→申し訳ないです。

(休みちゃうねん、お前仕事やろ今日・給料だせや・仕事やろ?こっちは仕事ちゃうねん)

→いやいや、あの、色々よろしくお願いします、小さいお子さんもおられますので、すみま

せん。そういうことで、あの時間くださいというか

(だから白紙にせえや)

→時間頂いて、次にこれで打ち切りにしまっせというのをやめたことは、これは大きな決定なんですよ。事情が考えられているわけですよ。

(先しといてその言い方はないと思うわ。誘導したでしょ)

→いえいえ誘導ではないんです。

(誘導したやん、間違いなく。この地域住民を誘導したでしょ。そこをさっきの質問を、先進めてくれてさっき女性の方言うたけど、俺の答えいうてないやん牛尾さん。何で勝手に進めてんねんてなるよこっちにしたら。同じ話ばかりかも分かれへんけどな、俺3回とも出てるから同じ話してんのはお前らのせいや。俺は答えを求めてんねん)

→はい、分かります。

(だから牛尾さんに何回も聞いてんねや。何で誘導したんですかっていう答えお前ら言うてないやん。進んで無いやん。)

→はい、ですので

(だから何で誘導したのって聞いてんの)

→いえ、誘導ではないです。あの時に、意見を聞いてほしいという声もあるんです。あるから、一応。

(誰ですか)

→だからそれは

(一応いうてもそんなようさん賛成いてると思われへんで。ほんなら陽明の意見を入れて、あわしてみたん？緑小だけやったらなれへんよ)

→いえいえ

(ならへんで。誰の意見やねん、そなんん言うけど。何百人ね、おる保護者の意見をたかが何人か、

数人の意見を聞いて、それでそれを意見かって言うてんの。そうやってさっきから木下さんは、6 : 4でとか7 : 3でとかわけわからんところだけパーセンテージの話してきて。そんな問題ちゃうと思うねん。データとかちゃうねん。ね？で、さっきのそこね、お母さんも言い合ったけど、すみませんで済む問題じゃないことをおたくらしたんやで。それ分かってて平然としてんのか)

→平然じゃないです。

(ほんなら何で議事録の前に、公開の会議の前にも、市民に何で説明されてんの？委託してんの？牛尾さんは。)

→絶対していません。

(ほんなら何で、十分事前に話聞いてますからって、牛尾さん、何やねんコラ)

→ちょっと待ってください。お願いします、すみません。

(答えだしてくれる？だから。そない言うんやったら)

→ちょっとだけ、他の件聞いて、後で

(先したいから、後でって言うけど、うやむやに座らされた。俺の答えてから他の、次の問題いったらいいんちゃうの。)

→他の方もちょっと質問

(答えて無いやん。)

→今喋りたい方もおられるので

(ほな先喋ったやつどうでもいいんかい)

→いえいえそんなことはないです。ちょっとお待ちいただいて。

(堂々巡りになるに決まってるやん。先に嘘ついたんやから。)

→本当に嘘じゃないんです。

(嘘です。)

→すみません、申し訳ないです。

(そしたらね、もうみなさん)

→ちょっと待ってください、マイクを持っていきますので。

(教育委員会の方来てはるわけですから、そこで)

→マイクを持っていきます。

(白紙撤回なら白紙撤回になりますと。6人さんの署名をください。はっきり言うてください。)

→では、こちらの方。

<保護者？>

○すみません、先生の事なんですけれども、一番初めに言われてました、最後の方にね、お話終わられる時に、統合として進めていくっておっしゃったんです。進めていくってどういうことかなと。決定じゃないって言われているのに、教育委員会の方の言葉がちょっとおかしいんじゃないのかなと。進めていくじゃなくて考えていくって言う方が、私もそんな国語得意な方じゃないですけど、進めていくのではなくて考えていくって言う方向で話し合っていくのがいいんじゃないかなと思うんです。進めていくって言葉は、統合を決定したという言い方にしか聞こえなかったんです。で、あの今日来て、統合、もし統合した時に、中学生と登校とかおっしゃってましたけど、中学生と登校するとかありえないと思うんです。みなさん考えたら分かると思うんですけど。中学生になったら、時間も違うし部活もあるし、そんな登校するって言うのは、小さい子どもと一緒に登校するということは、だれが考えてもちょっとあり得ないと、あり得ないことはないかもしれないんですけど、ちょっとおかしいかなと思ったんです。で、私は1回目からは出てません。なぜかと言うと、ホームページ見て「あ、決定なんや」と思ったんです。騙された、騙された部類です。で、いろんな方から聞いて、決定ではないよと。「あ、そうなんや」と。6年生なのでそんなに関係ないっていったらないんです。もう小学校卒業するので。でもよく考えたら、地域として小学校がなくなってしまうと、緑台小学校って言うのは、平野駅から近くて、住むとしたら、駅から近い、みなさんが、小学校が近かったら、緑台区域に来る、引越してこられると思うんです。今も私の家の周りも、いっぱい家が建ってるんです。あちこちどんどん建ってきて、何年か前に、地域で空き家があるから、それを調べて、声をかけて空き家をなくしていこうと言うふうには、グリーンハイツは今動いてるはずなんです。だからどんどん家が建ってるんですけども、そういう状況の中、小学校をなくしてしまうと、どんどん世代交代できない状態になっていくと思うんです。そうなれば、川西市も能勢電も潰れていくし、商店街も潰れていく、無くなってしまうと思うんですね。一種の営業妨害ではないかと私は思っているんです。これは教育委員会だけの話ではなくて、地域全体と

というか、あの、教育委員会だけのお話ではなくて、川西市の住宅環境とかそういう問題についても一緒に考えていかないといけない問題だと思うんです。教育委員会だけで判断してはいけないと思うので、もっとよく考えて頂きたいと思っています。(拍手)

→では後ろの女性の方。

<地域の方>

○緑台中学校2年生の保護者です。緑台小学校卒業です。まず、今時間がすごく押していて、この後陽明小学校の説明会があるのに、大変だと思えますけれども、説明会はできれば一つにして欲しいです。何でかって言うと、今ここで言っている方々が陽明小学校に行くのは大変だし、今の質問と答えを同じことを陽明小学校でするかどうかって言うのは不安です。やっぱり違う説明をされるんじゃないかなっていうのがあるので、できればグリーンハイツとして説明会は一つにして欲しいです。(拍手) もうひとつ、質問の一人の時間を、申し訳ないですが制限して欲しいです。なぜかと言うと、3人の方が反対したって言うよりも、30人の方が反対の意見を述べたという方が、説得力が全然違います。同じように良い事言っても、3人の意見を聞いたって言うよりも30人の意見を聞いた、80人の意見を聞いたという方が、あとで議事録に残るときも全然効果が違うので、一人10分なり5分なり、申し訳ないですけどまとめてくださってというふうに会議を進行して頂きたいです。(拍手)

それと、もうひとつ、先ほどから決定事項と書いた書かないとか勘違いされたとかそういう話がありましたけれども、もう起こってしまったことは仕方ないとして、じゃあそれを今回すごく進歩した議論をされたと思うんですよ、白紙撤回はしないけれども、これから考えますと言うふうに変ったことっていうのを市の広報であるとか、新聞だったりとか、そこにはっきりと、この話は今止まっています、決定事項ではありませんでした。まだこれから協議をしていきますということを、どこかでちゃんと発表して、ホームページっていうのは見ない方もおられると思いますので、ホームページだけではなくて、たとえば新聞の阪神版とかだったらいいんですけども、せめて広報には載せて欲しいです。やっぱり風評被害というのがありまして、実際にもう統合するんだって、仕方ないね決まったねと思っている方がすごくいるんですね。今ネット社会ですから、緑台小学校の卒業生なんかでも、さようなら緑台小学校って感じで、残念だねっていうのがSNSなんかでも回っているんですよ。だから、それは違う、まだ決まっていない、この話は止まっているというのを、きっちりとした形でみんなに伝えて頂かないと、先走って引越しをやめようとか、やっぱり、うまく伝わらなくて30年に統合するんだと思われたら困るので、そこらへんはもう言ってしまったんだったら、これはこういう経緯で、実際はそうじゃありませんというのを伝えていただきたいと思っています。以上です。(拍手)

→ありがとうございます。少し短めで、お願いします。では後ろの方。

<未就学 保護者>

○すみません、時間押している中。まだ未就学の保護者なんですけれども、まず先ほどの方の意見

と同様のことなんです、ただ先ほどの教育委員会の方の答えで、そういうつもりじゃなかったと、それも事実なのかもしれないですけども、ただ、そういう問題じゃないということは重々承知して頂きたいと思います。仮にですけども、それぞれ何か事故起こしました、人殺しました、でも殺すつもりはなかったと言ってもどうにもならないですよ。その概念というのが、もしそれが、質問にはなかったですけども、今後は違う形で進めていきますよと言ってますけれども、仮に同じように皆さんが参加されて、意見が出てきて、それを持ち帰って検討しますという状態なら何の話も進まないの、一回一回結論をだしていく場というのをやっていくつもりなのかどうか。その点についてお答えください。以上です。(拍手)

→ホームページの件、まずお答えします。今日の会議の結果も踏まえて、どのような形でお詫びしたらいいか、文面も含めて早急に修正する、で、本当にあの、嘘つく気はありませんでした。ほんで、お詫びも、結果としてこういう方向に行ってしまうのは事実です。だからそういう形で、必ずそういうことを組み入れた文章で修正のほうは進めます。それから今後の説明会の関係なんです、第2回目くらいから、一緒に話をさせてくれということで聞いております。それで十分考えておまして、他地区の説明会でもそんなご意見をいただいております。両方の保護者さん地域の皆さんそれぞれお立場がありますので、できるだけそういうふうな場を持って、さらに、これくらいの大規模でやるとどうしても言いにくいということになりましようから、実施の仕方も含めて、改善していきたいとそのように思っております。

→そうしましたら、今挙げている方で終了という形でよろしいでしょうか。

(平成30年はなくなっただけ？そこをはっきりして帰れや。時間は問題ないやろが。お前ら仕事やから時間言うねん)

<在学 保護者>

○緑台小学校の保護者の者です。この統合は、いったい誰のために行おうとしているのか、牛尾教育長答えていただけますか。一言で、誰のために、この統合を。

→地域の子どもたちのためにです。

○ありがとうございます。子どもたちのためにですね。前にある保護者が、説明会の時に、「子どもの意見を聞いてほしいのでアンケートをとってくれませんか」とおっしゃったんですけど、教育委員会はそのようなことはしませんと断言されました。子どもがね、小さいからといって、何も考えていないわけではないです。この統廃合によって一番影響を受けるのは誰ですか牛尾さん。

→子どもたちです。

○心がゆらぐのは子どもたちです。生活が一変するのは子どもたちです。他の学校の子から、「お前の学校、つぶれるんやってな」。子どもはどんな気持ちでその言葉を受け止めますか。「どうして小学校なくなるの？」子どもが私たちに聞きます。そうしたら「教育委員会が単学級がいけないからって言ってたよ。小規模校はいけないんだって。十分教育を受けられないんだって」と説明しました。そうしたら子どもが手紙を書いてくれました。教育委員会に届けてほしいと。「私は緑小をつぶしたくありません。だってものすごくいい思い出があります。ここにいたいです。年に2、3回陽明の人と仲良くする日を作ってはどうでしょうか。陽明もいいところです。だけど、緑台小学校は近くていいところです。ここに通うだけでも疲れる人がいます。陽明に行ったら、小学校1年生とか、苦しんでしまいます。小学校6年生や5年生はいいけど、歩けない人や疲れる人がいますので、やめてください。」「私はこの緑台小学校が大好きです。いくら人数が少なくても、友情や想いはどの学校よりずっと強く、多く溢れています。少ないからという理由でこの緑台小学校を壊さないでください。」「1年の時からずっといた学校で卒業したいです。緑小は私たちにとっての宝物です。こんなに近くで楽しい面白い学校なんてありません。だから統合はやめてください。」これが子どもの意見です。子どもの宝物である場所を今無くそうとしている。けれどもこれは子どものための統合だとおっしゃいますよね。そしたら、遠くに通うことになります。遠くから歩いてきたことがあるって教育委員会の方がおっしゃってましたけど、今ここにおられる方で、実際歩いてくださった方は何名いらっしゃいますか、手を挙げていただけますか。何回ですか。それぞれお答えいただけますか。何回歩いていただけましたか。左側の方から。

重たい荷物をもって、子どもたちが歩くってことを考えて、本当に子どもたちのためになるように、よろしくをお願いします。(拍手)

<地域の方？>

○あの、今の説明聞いていてですね。川西市教育委員会というのと、教育委員会事務局というのを区別してください。今日の説明資料も、「川西市教育委員会」ってなってるでしょ。教育委員会っていうのは、委員5名で構成されている委員会なんです。その他の方はすべて事務局です。事務局というのを教育委員会と、なんかこう二枚舌みたいな形で、適当に使われて、なんかごまかそうとするようなことはやめてください。牛尾教育長だけが、教育委員会のメンバーですね。校区審議会のメンバーで、最も根幹におられる方が牛尾教育長です。ということで、言葉遣いについて、お願いしたいところです。それからですね、川西市としては、地域を豊かにする、活性化する、そういうことに取り組んでいるはずなのに、川西市の市長部局に話が行けば、活性化するには子どもを産まなきゃいけないというのが最もわかっているにもかかわらず、今回の、40年後、50年後人口が減るから、もう2年後の30年度には合併やと。なんか人口が減るのを待ってました、手ぐすねひいて待ってたかのように統合の話が出てくる。そうじゃないでしょ。40年後、50年後を考えるんじゃないか、10年先はどうか、20年先はどうか、30年先はどうしていこう、そういうふうに出てくるのが自然です。なんで2年後に統合なんですか。そしてその結果グリーンハイツの…、この話を聞いただけで、ここに引っ越してこようとした人が、もう数名も、数家族も、取りやめているんですよ。そういうことで、このグリーンハイツのにぎわいを取り戻そう、子どもも多くしよう、若い人を呼び込もうというのに、水をかけたというか、砂をかけているわけです。そういう事

が流れた結果、引っ越してくるのを取りやめた人が何人もいる、知っているだけでも数家族いるという、そういうことをやっているの、とても地域のためにならないということで、反対で立ち上がって、5000名以上の方が、反対しているわけです。この5000名以上が反対であるというのを、記録に残してください。それで今当初の方針として何十年後に人口が減るからというその基本線でもってこれが進められているというのがよくわかると思います。で、今奇しくも、この緑台という地区に新しい家が建ち、若い子どもが増えている、そういうことはですね、事務局の方も学齢簿というのを持っているわけで、0歳児が何人いて1歳児が何人、とすべての学年にわたって校区別にデータを把握しているはず。だから、何年度には0歳児が何名いた、その次の年にはその年齢が増えているということは、これだけ転入があったということは明らかなんです。だから、連続する、学齢簿上の校区別の経過を出してください。お願いします。それをもっておたくが来年度小学校入学ですよという通知が来てるんだから、すべての学校で生徒を持つてるわけだから。全部わかっているはずなんです。で、わかっているにもかかわらず、人口流入というのに気が付いていただいたということでこれはすごく前進なんです。このことをですね、気が付いてない段階で校区審議会に諮問し、教育委員会で決定しているわけです。ということは、校区審議会の審議も見直す必要があるんじゃないですかね。そういうことを求めたわけなんです。だからこの統合を進めるのに、校区審議会の議事、会議録を見ますと、色々意見が出てるわけなんです。で、そのいろんな意見が出て、さっき問題になった特別措置についても、議論がでてるわけです。そんなことやったら緑台小が減るでしょ、ちゃんと書いてあるじゃないですか。委員がそういつてるじゃないですか。すみませんでしたはないでしょう。ちゃんと発言してるわけだから。ということで、教育委員会が決定したけれど、最終決定じゃない、じゃあいったい誰がどういう形で決めるのが最終決定かっていうのをおっしゃってください。何月に最終決定です、今は決まってない。でも決まった方向で着々と進めますよ、予定はこうですよ、ということですよ。で、特別措置については第2回で説明がありましたが、案やったわけです。特別措置は5%枠というのが前からあったわけです。でも今回は無制限に特別措置をやりますと。案やったのに。これを誰が案でなく決断したのか。決まってもないのに。決まってもないのに特別措置を無制限にやるっていう案内を出して、移動させて。その移動も、そんなんしたら大勢行くでしょうというのがわかっているのに、それをやって。その結果決まってないのに特別措置でそれを聞いてじゃあ先に移っとこうかと実際に動いている。その人が実はそうでなかったですよと言われたときに、どうしてくれるんですか。もう取り返せないわけなんです。時間は戻せないんだから。もう送ってしまってる。それやったら行く必要なかったわ、そういう事は出来ないんです。時間は戻せないんです。誰の責任で、そういう案内をしたのか。ちゃんと責任者がいるはず。責任者以外にその下の人がまわし始める、その文章を。だから、その決定を、誰がしたのか。教育委員会の議事録を見る限りそういう話を見たことがありません。だから誰が許可をしたのか。許可しないと文章まわしませんよ2回も。在学生と新入生に対して文章をまわしている。その名前は教育委員会名でまわしている。でも教育委員会で決めたんですか。自分たちで勝手に決めたんですか。教育長も合わせて決裁したんですか。その辺お答えください。

→あの、先ほどの方が言われた中でですね、ひとつ、統合までも含めて、実質は子どもたちの数が少しずつ増えてきているということは把握しております。そういう中でですね、統合

のこと進めていますけれど、こういう状況の中で、将来的には今おっしゃられたとおり、実質は統合については延びる可能性があるというところです。そういう中ですね、実質はそれを近い将来を見た時にですね、最終、ほんとに推量が変わってくると思うんです。そういう状況を見据えた時に、統合について確かに教育委員会としては、少し本当に単学級はできないんですよ、子どもたちの数が両校とも増えてると、こういう状況が続くということが一定把握できないとやっぱり統合については、そういうことはあろうかと思います。今一つ、今回教育委員会として決定を、教育委員会が30年の時に進めていくということを実際に判断をしました。その中には今おっしゃったようにですね、実質色々事情があった方がいる。これについてはですね、またお話をしていかなければならないなと思っています。ただ、お話していく中で、たとえば陽明小に進む方々は将来的には教育委員会として、緑台小学校陽明小学校についてですね、どちらかの校区かっている判断を、一定教育委員会の中で決めさせていただいて、どちらの方を、緑台小学校区ですけれども、お話させてもらったなかで、実質は陽明小学校の方に行くとおっしゃった方がおられる現実は今ないわけです。

(決定じゃないのになんでしたんかっていうことを質問してるのになんで話を変えるの)

→ひとつの方向性としては…

(決定してから動いたんやったらわかるよ)

→それを含めてですね、教育委員会としては。

(予算が前年度やからでしょ、予算を組んだりするのが前年度やからでしょ、言うてるのは)

→2回の説明の中で話をさせてもらったように。

(平成30年度にするんやったら今年の今頃そろそろ予算出てこえへん話になってくるでしょ)

→30年4月の統合を。

(平成30年決めること自体がおかしいやんそなん。地域住民の前に出んと。1回目も2回目も決定事項のように書いてたやないですか。私の質問にもずっと答えてないじゃないですかさっきから。んで終わりますて。終わらんでもいいやん別に。なんで終わらなあかんねん。俺仕事で来とんちゃうから。あんたら仕事やから終わろうとしてるんか知らんけど)

→ひとつですね、今のお話も含めて、向こうの方のお母さん、実際に初めてこの場に出させてもらって、そういう将来進むですね、統合、統合年度について検討していきたいということ。

(だから、「検討していきたいです」からしてくれたらわかるよ1回目から。あなた「決定」ってここで話しにきたよね1回目から。ほんで決定のように書面まわしたよね。ホームページも決定のように促したよね、さっき謝罪したよね。自分らいうてることむちゃくちゃやんか。だから終わらんでええいうてんねん。お前らうそつきやねんから。なんでうそつき帰らさなあかんねん)

→次に陽明小学校でも14時から。

(だから知らんやん、終わってからいけや、終わってから行ったらええやん)

<在学 保護者>

○在校生の親です。腹立たしいです。1回目2回目も嫁さん行ったけど。決定事項のようにされてたでしょ。HP出したの間違いでしたって、確認しますて、詐欺ですよ、詐欺。教えてください。そうでしょ、今先ほどおっしゃったように、1回目から防犯カメラのことについては、これどうなってますか、答えを、1回も答えてない、教えてください。そうでしょ、僕たちの、市民の税金で食うてるでしょ。市長。教えてください。日本語わからないですか？カメラについて、確認してください。質問替えましょうか、牛尾さんですね、教育について、学校ってどういうところですか、教えてください。

→学校と言いますのは、地域の子どもたちのために、将来独り立ちができるように、そういうことを教育を通してしっかりと進めていく場所です。

○そうですか。なぜそうしたら、2年後、平成30年度に廃校に持っていくんですか。決定してホームページに出すんですか。子どもが減っていくからというけど、陽明小学校より緑台小の方が子どもの数が多い。なぜ、陽明でなくて緑台を廃校にするんですか。僕も他市から引っ越してきましたよ。でも、引っ越してきた理由については、他に住んでた人が、2世帯3世帯、つまりお父さんお母さんと住めて、住みやすさを取ったって、言う方いらっしゃる。実際いらっしゃるんです。住みやすいですと。そういうことを聞いて僕は越してきた。で、先ほどから自分たちは、3年後に統廃合政策を仕向けていくとしか思えない。既成事実松風幼稚園だったり、緑台の空調設備をなぜなおさない。教えてください。このことに関しては、2時になっても帰らないでくださいね。お答えください。答えよ。

→教育委員会として決定して、1回目2回目と同じように、方向性を含めて。

(いいかげんにせえよ、十分な理解を得てないままに何が教育委員会が決定したからってやってんねん)

→その方向。

(文科省の指示も無視やないかそれやったら。地域住民、保護者の方と十分な話し合いをしてからしなさいってなってるやん。お前らのやり方は教育委員会が決めたからってやってるやん)

→地域の方と。

(話してないやん)

→させてもらってます。

(1回目からやろ。決定自体急にきてやな)

→方向性を。

(なんで、陽明と緑小で小中一貫教育を促してやってるけど、清和台のほうはなんで小中連携なんですか。教育がバラバラやん、同じ市やのに。知ってるでしょ。)

→小中一貫と、連携についてですが、基本的には、小学校と中学校の9年間、9年間の連続で連携していく形で、一緒になって一貫教育していくなかで取り組むことも基本的には同じ考え方で、小学校については進めていっているところです。ただ、今回もし、陽明小学校の場合でしたら、授業の交流をするとか…

(具体的に授業の交流でどういうことですか)

→中学の先生と小学校の先生との間で、5年生6年生の子どもたちの外国語について。

(それ、ほんまにいいと思います？北陵高校の先生がこの話聞いてえ？って言ってましたよ。今、子どもたちの教育に中学校、先生精一杯で、小学校行けますかってアンケート取りました？中学校教員の。取られました？小学校で、中学校の先生が、時間のない時に。自分たちそれ、机上の論なんですね。中学生持ったら仕事増えるんですよ。その人たちアンケート取られましたか。お答え下さい。)

→実際アンケートは取っていません。ただ、

(できないでしょ正直。)

→できる可能性があるから、

(複数人同時発言、聞き取れず)

(可能性で。小中なんて概念いらんねん。なんで自分たちで決めるんですか。民意で決めるんですよ。反対してるんですよ。グリーンハイツの地域が何人か知ってますか。反対運動を起こしている、一万超えますよ、ほぼ。さっきの話戻るけど、ここに住みたいって移ってきていらっしゃる、この人らの気持ちどうなるんですか。すいません？それに対して釈明の時間とってくださいと言われないとできないんですか。なんなん。大人でしょ。)

(複数人同時発言、怒声)

(家買い取れやお前ら、出て行っただから。嘘ついてすいませんで謝ったら終わるかって話をしてんねん。辞めたら教育長。俺言うわ、市長の大塩さんに。なに嘘ばかり言うてんねん。あんな誘導しよってやなお前ら。もうええわ作り笑顔は。後付けのこじ付けの理由は。お前ら座ってられへんぞ来年。よう考えてしゃべれや。)

→実際誘導とかいう意図はないんです。やっぱり子どもたちのためを思って。

(誘導やないかい。嘘つくな。子どものことなんか思っていないやろお前ら。子ども言うな。お前に子ども言われたないわ。防犯カメラつけてください質問の答えは)

→それはつけます。

(カメラつけるて誰の金でつけるねん。お前個人でつけるんかあほ。なんぼかかって誰が管理するかまでわかって話せい。なんで(統合)決定させてから(カメラ)決めんねん。安全が先やろ。あんな責任持つんかい牛尾さん。話終わり終わり言うて。安全詐欺や)

<市民の方>

○子どもの安全について、大阪府大東市の小学生、僕たちの気持ちを何も聞いてない。統廃合を中止してください。と書置きを残してホームから身を投じて。男子生徒がこんなにも悩んでいることを気づかなかったということは大変申し訳ない。という市教育委員会、校長先生の話でした。子どもの心がこれだけ傷ついている、統廃合の件で子どもの声を聞いてあげてください。どんなに傷ついているかという声を。あなた達は、単学級がいけない、単学級のリスクがすごく高いから、だから統廃合をしなきゃいけないと、やむを得ないとおっしゃいますけど、単学級になるリスクよりも、この子どもたちの心は、統廃合されてしまうということでは心がどんなに傷ついているか、どんなにリスクが高いか。こういうことになるかもしれないですよ。こっちのリスクの方がどんなに高いんですか。子どもが命を落とさないで、子どもの声は届かないんですか、あなたたちに。うちの子どもも怒っています。「こんな川西やだ」と言っています。勝手なことをするな。学校で教えられた、学級会をやって、みんなの意見を聞いて

て、ってそうやって学校で教えられてるのに、あなたたち大人が、見本である大人が、教育委員会が皆の意見を聞かずに教育の受益者である子ども、保護者、地域の人意見を聞かずに勝手に決めていいんですか。子どもは納得しませんよ。このことは重々覚えていてください。そして単学級に対するリスク、何回も単学級はよくないとおっしゃいましたけれど、私が調べた限りでは、小規模校のメリット、単学級のメリットたくさんあります。昔の時代は切磋琢磨する方がよかったです。たくさん子どもにもまれて、たくさん先生と一緒に育つ方がいいって、いう時代もあったと思います。でも時代は変わっています。少人数のクラスのメリットというと、指導が行き届きやすい、発表できる機会が多い、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる、色んな教室、設備をより多く使える、教材も一人一人に行きわたりやすい、少ない出資で、地域の協力が得られやすい、教育環境が把握しやすい、一定レベルの基礎学力をすべての児童生徒に保証できる、個別指導もできる、十分な時間の確保もできる、繰り返しの学習もできる。とにかく、子どもが少ないと、一人一人きめ細やかな個人を大切に、そういう学習、教育ができるはずなんです。小さな学校ほど、学力が高くなると。そういう資料、ご存知ですか。それを、ただ、人数が少ないから統廃合、学校をつぶそうと、万が一なにかあったらとか、その万が一と言うよりもさっきの自分が命と引き換えにしたものをその子の意識の方がどんなに高いか、わかりますか？もしここでこんなことが起こったら、どう責任をとっていただけるんですか。それでも単学級のほうがリスク高いんですか。私はここにすごく疑問を持っています。単学級に対するリスクが非常に高いと。何回も説得されましたけれど、私はここにすごく疑問を持っています。(拍手)

→ですから単学級という一つのことでは話をしている訳ではないんです。単学級のよさというのも本当に承知してまして、そういう学校もたくさん全国にございます。その中でですね、今おっしゃった様に安全面、単学級の部分で言うんじゃなくてですね、これから先のことを、そういった、

(平成30年じゃないって言えよ)

→その可能性は高いですけど、その事を含めてですね、こういう状況の中で、もう一度説明会をさせていただきたいと思います。その方向で今おっしゃった様に全体を見た時にそういう状況が、子どもたちの数を、推計とか、

(特別措置は理由にはならんで。俺の質問も終わってない。それは俺ほんま裁判かけてでもやるで。お宅らおかしいからな。何が特別措置やねん。決定じゃないわれたのに、何で特別措置をしてん。おかしいやろ。司会者座れや。まだ質問終わってないやろうが。答えさせてくれや先)

<在学？ 保護者>

○すいません。僕一回目から来てるんですけど。僕ら緑小3回とも出てるんですが、毎回毎回どなたかが言うてるんです。何回も言うてましたけど、何で緑小なんですか。何で陽明じゃなく緑小なんですか。これ一番最初に言いました。その時に小中一貫したいからやと。そんなもん、たまたま陽明と緑中が近いからやと。清和台どうなんねんと。清和台は清小も南小もだいたい同じような距離ですし、どっちに

すんねんと。あっちは連携、こっちは一貫がやりたいから、いうふうな形で言いはりました。ならそれがそちらの意見というのであれば、スクールバスを東西に通してえなと言いました。検討しますというふうになってたけど、今日出ないですね。で、今日やめますいうと、一貫の話が全くない。あのときずーっと一貫一貫一貫言うてるんです。皆一貫に納得せえへん。統廃合と一貫をくつつけるなよというのがみんなの本心です。それが一貫一貫一貫、ってなんやねん。帰ってからも一貫って語ってただけやと。だから怒ってるねん。緑小をつぶすなという。何でかっていうと、緑小つぶさんと陽明つぶしたらええやん。って向こうの方から言われたら嫌だからです。わかります？それぐらい気を使って、気を使って、やってるんですわ。先ほど言ったとおり、俺らめっちゃめっちゃになってんねん。こういうことなかったら、それをずーっとあなた方は統合統合、というよりも一貫一貫、一貫教育、やりますということばかり言ってきましたけど、今日、小中一貫のこといっこも出てない。結局ね、答えが何にもないんでね。それが、今ホームページの件、誘導したつもりはないです、と言い張りますけどね、今後のことを考えたら、早めに発表しないと後々迷惑かけますから、それで教育委員会としての対処としては年5%、越境はあるけれど、そういうことを考えてます。要するにあんたらは言いました。誰が聞いたってね、緑台なくなります。さあ今から入ります。どうしますか。陽明行きます言うにきまっています。次は陽明になるんです。それを誘導と言わずしてなんて言うんですか。ね。確定してもいないことを。例えばあなた方、役所なくなります、どうしますか。まだ確定してないですよ。よそ行きますか言うたら、聞く方も考えるんちゃいます？でしょ。だから誘導ていわへんですけど、ほぼ誘導です。だけど困る人っていうのは反対逆にすごい細かい、細かいところの地域に今住んでいることや。細かいところまで考えてやっているんです。で、前も言いましたけど実際あんたらだけで行かんと、地域の市議会議員の男性、僕ら見て何も聞いてないんですよ。はっきり言うたら。出来たら市長連れてこい言いましたよね？2回目も言いました。だけど、流れとしては、あんたらが持ってきたのは一回目は確かに案でした。でも僕らに言わせたら何で緑小やねん。なんで緑小つぶすねん。距離も短いし人数も多いし、こっちをつぶす意味が分からん。なんで緑小やねん。っていうたら、一貫の一点張りです。一貫一貫一貫です。一でも納得いけへんからとりあえず2回目やりましょと。2回目にはもう案でなくなってます。ね、ほぼ決定事項のことのように、それは決定事項ですかとぼくらずーっといいました。でもそれは決定事項だとは言いませんよ。でも教育委員会では市は決定事項ではっていうことを言いはります。さっきのホームページです。たまたまなんですね、たまたまであるとしたら、たまたま白紙撤回しますよ。と書いてくださいよ。(拍手)

先ほどから、消せ消せ言われてますけど、ここは消してほしくないんですよ。消したらあんたらなかったことにするから。消さんとそのまま置いといて、こうこうこうしましたけど白紙撤回しますとたまたま載せてください。さっきから、あなたたちの立場もあるし、たぶんどっかからの圧力やと思ってるんです。ということは、おそらくあなたがた事務方の腹の中でもって、こういう風なことで行こうと思ってることあると思うんです。ね。基本的には白紙撤回ですよ。白紙撤回をして教育長が言うように何年か経ったら、やっぱり少なかったな。そっから本格化するんやったらまだええですよ。これを延長延長するんじゃなしに、一回切った方がええやろと。白紙にして、なんか色んなことをやってみた、けど、やっぱり単学級という状況が変わってけえへんということやったら、そっから出したらええんちゃいますの？(拍手) 反対やないんです、少子化やから仕方ないのは一番最初の一回目から言うてるんですわ。だから賛成でも反対でもなかったんですわ。けど、あなた方の対応にあまりにも穴があって(腹が立っ

て?)、実際ね。だから、今回のやつでも時間あったらわかりますよ。向こうは人数少ないんですよ。向こうから呼んでこいや。あんたら実際に行って、こっち側が多くて向こう少ないんでしょ。実際ね。じゃあこっちに来てもらったらええやん。なんやったらここへ車持っていくの手伝ってもらってこっち来てって言うてこっちでこのままやったらええやん。熱意がないんです。実際。

陽明の人でもね、陽明の人がなんで緑小とくつつかなあかんのって言うてる人どどんおる。そりやそうですわ。誰だって今までのを変えたくないんですよ。ね。僕らにしてみたらこっちの方が人数多い、向こうが少なくて、で、単学級が向こうから現れる。やけど向こうの人間は入れてやっているとゆうてるんですよ、ね。だけど、そんなんでも近所の人、そこらへんに住んでる人がいるかもしれないでしょ、そんなところまで気にしてこういうことやってるんですわ。実際ね。子どもが帰ってきて時間が6時とかでもやっておられるんですよ。そこまで細かくやってるのに検討します。検討します。だから確かに僕らの言うてることは、答えにくいこともある。けど、じゃあこれからは、私ども、教育委員会として、こうやります。こういう風に白紙に持っていきように持っていきます。ただ出来るかどうかはわかりませんが、という言葉が、出るかと思えば、出ないですね。30年、時間下さい。30年やらないかもしれません。でも、僕らの中では30年越えてでも、もう一度やろうと思ってるんですわ。そのような言葉が出てもおかしくないですね。反対したい人しかおれへんやん。2時間ですむわけないんや。実際ね。だからとりあえずあなた方の意見としたら、今までとは違うんです。という風になるんだったら僕たちは統合までこういうふうしたいと思ってます。だからたとえば一か月待ってください、一か月待ったらこうこうこうなる、なりますから、そういうものが出てくる、というふうなら、しばらく待とう思いますよ。ホンマに進むんかどうかわからない、実際ね。先ほどおっしゃった様に、何とかさんっていう女の方が統廃合のことっていうふうになったから。本当にそうなのかもしれませんよ。ね。でもそう考えたらなんとかクラブいう会派依頼が来たときには、統廃合で決めてますみたいな。検討しますって書いてあります。市議会議員やったら知らんわけないと思いますよ。ね、だけどその人は、どこの人かは知りませんがそう思ってくれはったということ。立場上、市議会議員の人がここで3回やったけど3回とも誰かが発言したことはないです。グリーンハイツのこと考えてくれてるんかなとほんとうに思う。けど、それなりの何か変わるもん、出すようにして。うちの子どもでもゲームしたかったらなんかネタ持って来よる。掃除したからやらしてって。小学生でもそんなんして来よるんですよ。なんとかゲームしたいなって。あんたら今2時になったから終わりやって、終わらそう思ったらなんか持ってきてこいや。今までもそうやん、統廃合したいからって持ってきたネタが全然小学生以下なんですよ。統廃合やりたい、こうこうこういう事で緑小つぶしたいんですよと、緑小のデメリットを持ってくるか思ったら、持ってくるもの持ってくるもの全部陽明のメリットやん、持ってくるもんおかしい。実際ね。で、誘導はした覚えはありませんって言うますけど、1回目の段階で、これから引越してくる人は引越し、1年生と4年生で1年生で入ってきた子が、緑小と陽明に行くかたちになるから、そうしたらあかんから行けるようにして私共はこういう風な案を持っていますということだったと思います。でも誰が聞いたって、緑小はなくなります、陽明行けませって言うたら、「行けへんわ」という子は少ないんちゃいますか。それもまだ、うちの子みたいに、緑小統合するんやったら、今一人だけ出すのはどうかなとかっていうのは、一人っ子やったんで。今から入るんやったら当然向こう行く。あんたらやってそうです。どうです、普通に考えてそうじゃないですか。だからあんたらの、ぼくらはこうしますっていうのを、時間がないというんやったら、決めて、今日言ってください。いついつまでにします、次なにをいついつにす

る予定にしていますよ。そうすれば、あなた方がほんまに真剣にやってくれて、それでもひっくりかえらへんようなことであるんやったら、あんたらじゃないんですよ。市のトップ出さなあかんいうことになるんですよ。あなたたちが悪いんじゃないんです。はっきり言えば、やらへんねやったらあんたら悪い。どうしても統合したい、緑小つぶしたい、もしかしたら緑小にかかる費用を抑えたいという。そんなん言うたってキセラかなんかにアホほどお金かけとったりしてね。だから今はあなた方はこう動きたい、こういう風にしたいという方向性を変えます、という風にしても、あなた方は審議会かなんかせなあかんでしょ。白紙にしようと思って、前に進めようとしています。そういうことだけでも言うてくれたら。審議会がしてくれへんやろ。はっきり言うたら、口は悪いですけど。僕も悪いけど。けど皆一生懸命なんですよ。防犯カメラは、統合せな付けられへんのん？子どものこと考えたらもっとさっさと付けられええがな。別にかまへんねん、今時こんなんやってんねんから。緑小のまわりにつけてくれたら構へんがな。そりゃ地域だから、プライバシーの侵害や言う人がいるかもしれへんけど、教育委員会としたら統合のことを考えたら今時こうこうこうやから、やっていますっていうのがあってもえええしよ。やってみるかどうか知らんよその話してもらってへんから。でもね、防犯カメラの件に関したら、そういうことですよ。実際。ね。だからこう、今までのことをどうやこうや言うのは進めへん。人殺したら生き返らへんさっき誰か言うとしたけど。でも、あんたらはやってはいけないことをやってんねん。はっきり言うて。それこそ、元に戻します。白紙にします。でもそういうことやん。先走ってしまったんやん。もっとだから、最初から30年でせえへんと、6年、長くとつとつたら、こんなことはなかったんや。けどもうなんか、一貫だなんだとか、ぼくらに言わせたら言い訳のように色んなことを言うてやってきたけど、さあ最後本番やと思ったら、大反対やなんかでどっかで止まってもうたんです。だからあんたら大変なんです。だから、こちらの方によって来るんであれば、廃止にするつもり、白紙にするつもりでおるんやって、教育委員会が白紙として動こうと思っております。これがあればたぶんまだ通るでしょう。だから、今ここであと10分ほどあるやろ、陽明まで行けるやろ、あと10分、5分でも、みなさん6人とも、相談して、どうしますって。白紙にします、延期にしますって、決めて、署名が欲しい言うてはる人がおるなら署名したらええし、ビデオまわってるから、ちゃんとそれで教育委員会としては、こうこうこういう風に進めようと思っていました。ただ、上手いこといけへんいうことになったら、次の人に来てもらって、こういうことですかってやったらいいわけです。市議会議員さんがやってくれるんか知らんけど。ね、あなた方は、やっぱり子どものために、こう思ってこうやったらいい、統合はあかんというふうにやったらいい。だから白紙撤回した、ただ、教育長が言うように、未来の話、10年後にやっぱりどうしても、緑小なんです。ね、緑小の方に住民が入ってけえへんようになって、おそらくそのあとには陽明へも現実足りんようになるんです。ほな今度緑中足りんようになる。ほな、ここには何にもなしにするつもりなのかと。皆さん多田中に行ってくださいね、多田小に行ってくださいね、グリーンハイツの人は、小学校は多田小、中学校は多田中に行ってくださいね、というふうにする予定なんです。そこまで考えるんです。でしょ？この年度ではいい統合、はい一貫一貫、ね、言っているとですよ、中学校の先生、一貫だとか連携だとか聞くと、そんな時間ないと。中学校だけで大変やねんから。これ本心やと思いますよ。なぜ緑小と緑中の連携がないんですか。すぐ行けますよねって言ったけど、それはダメなんですわという説明でしたよね、1回目。だから僕ら3回出てるひとはほんまにあなた方を信じられへん。だからこんだけ怒るんです。ここ初めてやから、どんなんかわからへん。なんで緑小やねんって。実際ね。そやけど全部納得できてないです。1回目も納得できてへん。なんで一貫じゃないと

あかんのか。今になってみたら、どこいってん、あんたら一貫一貫言うよったやん。一貫どこいってんな。あんたらの夢の一貫はどこにいてもたんや。でなんか、違うねん、緑小つぶす言う話から始まってからそうなってくんねん。だから全部つじつまが合えへんねん。だから緑小つぶすということから始めてるから、34506~08しよるから、こんなふうになってもうてんそれはしゃあない。自分らやってもうてんから。だから今後どうするかや。だから、決めて、今日、市教育委員会、これで全員でしょ？全員やったら全員でこういうふうにしよようと思います。宜しく願います。という風にしてください。それで審議会にうつせるのがどれくらいでそっから答えが返ってくるっていうのがいついつ、ってあんたらやったらだいたいわかるでしょ、1か月かかるのか、2週間かかるのか、ほんならだいたいこのあたりで説明会しますいうて、スケジュール落とし込んでますっていう感じでしてください。よろしく願います。(拍手)

→上手くまとめてもらえてるというのものもあるんですけども、まず一つですけども、こういう決定、今日私たちが言ったのは、決定ではなくて、少し考える時間をください、ということを行いました。でこれ決まったのは実はつい2、3日前です。これはなぜかと言うと、統合というのは非常に大きい問題だということを我々は受け止めています。で、この多田グリーンハイツ地区の、まあ何度も繰り返しになりますけど、人の移動であったりとか、これだけたくさんの方のいろんなご意見いただいた中で、統合していくのが、果たしていいのかどうか、ということで、今日の説明会の趣旨を、急遽変えました。それが、事実です。3日前です。変えたのは。そこまでは、今日この場で、平成30年の4月に統合します、場所は陽明小学校ですって、いう予定でした。それを変えました。そしてちょっと時間をください、と言いました。これは事実です。それは何も案がないわけじゃなくて、我々もこうしたらいいっていう考えを持っています。で、これも皆さんと色々な意見を聞きながらということですので、またこれから色々なところでご意見をうかがうんですが、現時点では、統合時期を伸ばしたい、という風に考えております。あとの事については、今、現状は、そうなります。そこだけってのは、当然今ご指摘がありましたように、教育委員会事務局として、考えを精査していかないといけませんし、先ほどご意見ありましたように教育委員と教育委員会というのは違いますので、我々教育委員会事務局としては、その部分をもう一度しっかり練り直したい。ですから、白紙撤回というのは一つの方法だし、延ばすことも一つの方法だし、それはまだ可能性としては残されているんです。ただ、教育委員会事務局としては、時期を延ばすということで現時点では考えております。少なくとも、今日決定するということ、もう少し考える時間をくださいということで今日お伺いしている、そういう状況でございます。

(時期は何年くらいなんですか?)

→あの30年以降になるという決定は出来ないんです。教育委員会事務局としては、そういうふうになりたいということ、を思って今日は止めているわけです。

(結局は30年？なんで急に気が変わったん?)

→それは、何度も言ってますけれども、地域の方々との話し合いが今のところ十分行われていないという点と、それから先ほどから何度もご指摘がありますように、子どもたち、いわゆる、グリーンハイツに入ってくる子どもの数があって、単学級が思った以上に、生まれる時期が後ろにずれたということで、そういうことで今日は話をさせていただいています。

(それじゃあ3日前にもらった今日当日配る資料とちゃうやろ。そんなん小学生でも出来るわ。)

→資料についてはすでにホームページに

(変えました。ホームページの資料も変えました。出来るでしょ。そのくらい。小学生でも、この宿題間違えてた、やり直して出しますわ。後付けやねん。)

<地域の方>

○すいません、さっき言いましたでしょ。常任委員会があって、私は傍聴人で行った時に5月16日に行ったんです。そのあと黒田議員がしっかり言って頂いたから、決定したと回しまして、決定ではないんですかと言われたんですよ皆さんの前で教育委員会の方に。だからそんなうやむやにして、決定ではないですと言うことになったんです。その時5月16日です。それでみなさんがまた副市長とかで話し合われた。きっとそれで、6日にはもう決定ということで資料になってますね。空調設備も全部これ除いて14校と、これは緑台小除いてるんですから。で、黒田議員も怒ったんです。まだ決定もしていない、廃校されていない状況にあるのになぜ緑台小が外れているんですかという資料。わたしは全部資料持ってますんで分かります。それで協議してくださいと言われました。それで19日に、どうも信頼できないところがありますね。

(信用できへんわ。)

<保護者>

○すいません、すいません。説明会の時に、30年にするためには、今年の予算に通さへんと間に合わないと説明してはりましたよね、一番最初のスケジュールの時に。ということは、延ばしてくださいということは、30年に間に合わへんということですよね。そういうことですよ。

(もう嘘つかんと、はっきり喋って行ってや。大事なことやねん。包んでもの言われてもしゃあないねん。)

<議員>

○ちょっとすみません。あんまりしゃべりたくないやけど、ちょっとマイク回してください。すいません、平岡と申します。事実が事実として知っていただかなくちゃいけないところはありますから、お話をさせてもらっているんですけども、まず、統合のスケジュール、日程については伸びま

す。なぜかと言うと、もともと平成26年度の、住民基本台帳を基にした将来推計というのを出したところ、平成29年度に陽明小学校で単学級が生じる。いわゆる34人くらいしか児童数がないという、その結果将来的には単学級になるというおそれがあるから、学校校区審に諮問をして、それで統合やむなしという結果が出たんですけども、実際、現在の住民基本台帳で、お話をされたと思うんですけども、転入あるいは流入が増えてきているので、平成29年度には、たぶんおそらく、単学級ではないだろう、複数学級で新一年生、平成29年度の新一年生いけるだろうという判断の中で、単学級ではなく2クラスくらいになるのであれば統合する必要性がなくなってくるということ。で、平成27年度に推計したときには平成29年度と平成31年度、ここで陽明小学校に単学級がでる。緑小については平成32年度に単学級が出るだろうという推測の中で、将来は統合という形の中で教育委員会が判断したということなので、現実に平成29年度に単学級でないという判断を、今からしっかりと精査して、その結果というのは、住民基本台帳しっかりと調べて、この地域にどれだけ就学前児童がいるのかということと全部調べた中で、正確な答えを次回持ってくるんだということを私は今受け取りましたんで、そこでしっかりと見て頂いて、次の説明会でしっかりと皆さんに分かるように説明して頂きたい。

(次回だけ決めてや。およそでもいいから。10月なんか11月なんか8月なんか。夏休み前で。7月ええやん。)

→あの、本当に基本的にはですけども、これから先の子どもたちの推計をもとに、そして、これが30年4月以降になる可能性も出てくるということをお伝えしたいのでお話したんですけども。そういうことの中で、それが3年か4年か5年かわからないですけども、そういったところも踏まえて、それから一年生の子どもさんが実質は去年度初めて、実際の将来についての決定ってというのは進めていきたいなと思っております。そしてその期間ですけども、実質は今日お話をさせて頂いて、これから先早いうちに、本当に一定の準備もこれから考えていくことが必要ですのでね、時間頂いて、ここって言うことは今の段階で言えないですけども、前向きにそこはきちっと決定してですね、そして説明会をして、進めていきたいと思しますので、よろしくお願いします。

(ほんならそれまでは決定する、しないという話は何もしないということ？次開催されるまでは。勝手に決めへんということ？勝手に決めるから言うてるねんけどね。なんべんも言うてるけど。)

→確かに方向性を決める上で本当に、そのあたりがあったんですけど、その期間まで決定事項としてはならないということです。次の説明会の方で決定します。

(じゃあ今のホームページはあれ残したままで謝罪文を流すということやね？)

→そこは検討していきます。

(検討ちゃうわ、それ答えろやさっき謝ったんやから)

<地域の方>

○すいません、決定事項、緑台小学校卒業生をもつ緑台の住民なんですけども、ひとつお伺いしたいんですが、皆さんが今日いろいろご意見おっしゃってた疑問なのかなと思ってずっと聞いていたんですけども、最初から、先ほどまで一貫して教育委員会の方は、人口の推移、子どもたちの推移のみだけで、統廃合を決めます決めませんということで、一貫して、それでちょっと人数が増えてくる可能性があるので延期の可能性が出てきますよというふうに今までおっしゃってる最初のニュアンスとして、ちょっと人数も増えてきましたので、ちょっと市もそういうところとはどうか、それでそういうデータありますからねという、ずっと人数だけのことを一貫して教育委員会の方はおっしゃってるような気がします。住民の方は、いろんな観点から子どもたちの事思っておっしゃってると思うんですけども、結局は色々考えて調査しましたが、人数的には将来、30年は伸びたとしても人数的にこうだからこうですという結論のような形で。統合については夢物語のような、中学生と、とかいうそういう具体的な、他に、住民の方々が、いろんな方が心配とか感情とかいろんな気持ちとかを訴えてらっしゃると思うんです。そこを考えますということは誰もおっしゃってなくて、人数的なところで調査して具体化しますっていう方向にしか、なんかとられてないような、ずっと聞いていて聞こえないんですね。だからいろんな、教育委員会としては、数字的なだけで統廃合っていうのを決定する権利がありますということなのかわかりませんが、いろんな面を具体的に考えて、じゃあ結論どちらですっていうふうにおっしゃって下さらないと、すごく不安が残る説明会だなと思ったんです。

→おっしゃった通りですけども、確かにですね、統合につきましては、子ども達の人数という部分は一番考えて、ただ今までの課題については、中でも一番おっしゃっていた安全面について、それから教育配慮とか、実質子育ての家庭とかいろいろな環境の中で、これまでの課題を整理して、そういうところも含めて、まさにそういう様々な状況について検討したいと思っています。よろしくお願いします。

(それやったら陽明つぶす案も出てくるということですか。緑小の方が人数多いやんか、小中一貫の話からずれたでしょ。陽明を廃校にする案も考えてるということですか。こんなこと言いたないよ)

→今の段階では、教育委員会としては陽明小学校の方で進めていきたいというのがあります。

(なんで少ない方から(残して)、犠牲にならなあかんの。犠牲者や犠牲者、子どもが。差別や差別。登校時間も変わったら、30分1時間かかる子もいるわけでしょ。ほなその子ら勉強時間も30分1時間減るんや。遊ぶ時間もそこから出とんねん。責任取られへんでどこが受け答えや。現実はこちらの方が多いやん。おかしいねん言うてることが。)

→先ほども言いましたけれども、要はちょっと時間をいただきたいということですので、そ

の辺も踏まえて…

(ちょっとどれくらいなんですか。5000人くらいが反対してるわけやから、おたくらいる市役所に毎日100名かなんかで行ったらええのん)

→いえ、そういうことではなく、方向性をお示しさせていただくので。だからそういうこともすべて含めて、課題の整理をさせていただきますということで、

(どれくらいの期間なんですか、ひと月くらいですか。なんでもけつ決めるでしょ。あんたらは平成30年でけつ決めて。統合に関してはいっぱい考えることあるわけでしょ)

→そのあたりの含めてできるだけ早急に出します。

(早急でどれくらいですか。夏までとか役所やからそなん言えんねん。民間やったらけつ決めて仕事しとるわ。けつ決めろ)

<在校生 保護者>

○緑台小学校の卒業生であるとともに、在校生の母です。とりあえず、今、人数の推移をちゃんと整理してやられると言っていました、それだけでは同じことが起こると思うんです。それをすごい気にしています。すごい不信感を正直みんな持つてると思うんです。なので、当事者、ここの地域の方々とか、実際に単学級である方の保護者の声とか、そこらへんをちゃんと汲み取ってもらわないと、また同じことの繰り返しになると思うんです。単学級のメリットデメリットだけでなく、実際に起こったこととか、いいこと、陽明の今年の中1、陽明小は昨年単学級でしたよね、そういう方の意見とかを全部踏まえたうえで、説明いただいて、実際の当事者がどう考えるかを加えて決めていただきたいと思います。お願いします。(拍手)

→ご意見ありがとうございます。

(牛尾さん残ってや)

→前にいるメンバーは全員次の陽明小に行きますのでご理解ください。これを持ちまして本日の地域説明会を閉会いたします。ありがとうございました。お気をつけてお帰りくださいませ。

終了